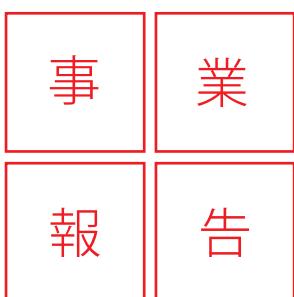


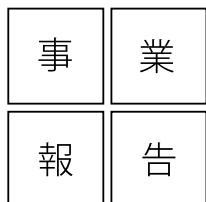
令和 5 年度



ANNUAL
REPORT

2023 April > 2024 March

令和 5 年度



ANNUAL
REPORT

2023 April ▶ 2024 March



Henry Dunant
1828 - 1910

PAGE CONTENTS

1	Mission Statement
3	事務局長 Message
	事業報告
4	国内災害救護
16	救急法等の講習
20	国際活動
24	赤十字ボランティア
32	青少年赤十字
38	赤十字思想の普及・広報
42	会員（社員）・活動資金の募集
46	医療事業 / 血液事業 / 社会福祉事業 / 看護師養成
60	職員の人材育成
62	評議員会・役員
65	参考資料

アンリー・デュナンは、1859 年、イタリア戦争の激戦地で放置された 4 万人の死傷兵に遭遇します。

「傷ついた兵士はもはや兵士ではない。人間同士、尊い命は救わなければならない。」という信念に突き動かされ、村人たちと協力して、敵味方を区別せず負傷者を救護しました。この体験を「ソルフェリーノの思い出」という本にまとめ、

- ① 傷病者は敵味方の区別なく救護すること
- ② そのために平時から各国に救護団体を組織すること
- ③ この目的のために国際的な条約を締結しておくこと

これらの必要性を訴えました。この思想がヨーロッパ各国の反響を呼び、1864 年に戦争犠牲者の保護・救済のためのジュネーブ条約が調印され、国際赤十字が誕生しました。

※特に断りのないデータは令和 6 年 3 月 31 日時点のものです。

※本文中の ■ は令和 5 年度に重点的に取り組んだ事業になります。

Mission Statement

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。

公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。

中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。

独立：国や他の救助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。

奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。

単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。

世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

事務局長 Message

平素より日本赤十字社東京都支部の事業に、格別のご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

令和6年能登半島地震で被災された方、そしてご家族の皆さんに心よりお見舞いを申し上げます。

日本赤十字社は発災直後から被災地へ医療チームや支援要員を派遣し、全国の赤十字が総力を結集して、切れ目のない支援活動を行ってきました。今後も変わりゆく被災地のニーズに寄り添い、中長期的な支援活動を継続してまいります。

また、首都直下地震などの大規模災害を見据えた防災・減災の対応にも引き続き取り組んでまいります。

昨年度は、コロナ禍で停滞していた社会・経済活動の回復に合わせ、これまで実施を見合させていた赤十字奉仕団や青少年赤十字メンバーによるボランティア活動や救急法等の講習、防災セミナーなど多くの赤十字事業を再開することができました。

東京都支部は、地域とのつながりをより密接で強固なものにするための活動に取り組むとともに、赤十字を支えてくださる皆さまと様々な形で連携・協働することで「人々が支え合う、安全、安心な社会」の形成を目指して事業を展開してまいります。今後とも一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年6月



日本赤十字社東京都支部
事務局長 矢部 信栄

令和5年度も日本全国で多くの自然災害が発生し、大きな被害が生じました。日本赤十字社は、災害発生直後から速やかに医療救護班や支援要員を被災地へ派遣し、医療救護活動を行いました。また、変わり続ける被災者のニーズに寄り添い、こころのケア、避難所の保健衛生・健康管理支援、救援物資の配布など、多岐に渡る救護活動をボランティアと一体となって実施しました。

近い将来に発生が予測されている首都直下地震等の大規模災害に対応するため、救護体制の強化・充実を図るとともに、都民の皆さまへの「防災・減災」思想の普及にも取り組んでいます。

令和6年能登半島地震への対応

令和6年1月1日に発生した石川県能登地方を震源とする地震は最大震度7を観測し、家屋の倒壊やライフラインの断絶など甚大な被害をもたらしました。多くの人々が日常を奪われ避難生活を送る中、日本赤十字社は発災直後から救護班の派遣や救援物資の配布など、被災地の支援に動き出しました。

東京都支部では、1月2日から継続的に救護班を派遣（管内3病院から計7班）したほか、被災された方々や自らも被災した行政職員へのこころのケア活動を実施しました。

また、現地で宿泊施設を確保するのが困難だったことから、「自己完結型」の活動を行うために大型テントを現地へ届け、過酷な状況下で活動する救護員の生活拠点となるテント村の設営も行いました。



避難所で巡回診療を行う救護班員



雪の降る中、救護員用のテントを設営する

◆ 救護班等の派遣

活動形態	派遣元施設	班数／人数
医療救護班	武蔵野赤十字病院	4班
	大森赤十字病院	1班
	東京かつしか赤十字母子医療センター	2班
日赤災害医療 コーディネートチーム	武蔵野赤十字病院	3班
	大森赤十字病院	1班
こころのケア調整班	東京都支部	1人
	大森赤十字病院	1人
こころのケア班	武蔵野赤十字病院	1班
	大森赤十字病院・東京かつしか赤十字 母子医療センター・東京都支部（合同）	1班
ロジスティクス支援など	東京かつしか赤十字母子医療センター	1人
	東京都支部	5人

※日赤災害医療コーディネートチームとは、被災地の保健医療ニーズを把握し、関係機関との協議・調整や救護班の統括を行うチームです。災害医療コーディネーター（医師）とコーディネートスタッフ（看護師や事務職員など）で編成されます。

◆ 救援物資の配分

被災地からの要請に基づき、以下の救援物資を現地へ届けました。

安眠セット	緊急セット
600 セット	300 セット



救援物資の搬出を行う救護ボランティア

● 赤十字防災セミナー

大規模災害が発生したときにいのちを守るために、地域で「自助」と「共助」の力を高めておくことが重要です。

防災・減災に関する知識・意識・技術の普及向上を目的として、自治会などの自主防災組織や法人、学校等を対象に様々な防災教育事業を実施しています。

令和5年度開催実績

メニュー	内容	開催回数	受講者数
災害への備え	災害・防災についての考え方や、災害別の想定被害などから、平時の備えの重要性を理解する	38回	1,755人
江東5区大規模水害からいのちを守る	江東5区（墨田区・江東区・足立区・葛飾区・江戸川区）で発生が想定される大規模水害からいのちを守るための平時の備えを学ぶ	2回	70人
災害エスノグラフィー	大規模災害の被災者の経験談を通じて、災害を追体験することで被災の具体的なイメージを理解する	7回	350人
災害図上訓練（DIG）	地域の防災マップの作成を通じて、防災上の資源や危険個所などを把握・理解し、個人や地域での防災対策につなげる	3回	65人
学校防災コース	児童・生徒が災害時に自らのいのちを守り、周りの人と助け合うための方法を学ぶ	40回	4,111人



過去の災害を追体験するエスノグラフィー



地域における防災上の資源や危険個所を確認する図上訓練

● 防災教育事業指導者養成・育成のための研修

研修名	実施日	内容	参加者
防災教育事業主任指導者研修	4月28日	防災教育事業の円滑な運営のため、指導者の養成やフォローアップにかかる研修の企画・運営等ができる要員を養成する	赤十字職員 2人
防災教育事業指導者養成研修	7月8日～9日	市民の防災・減災に関する知識・意識・技術を普及向上し、地域において災害発生時の応急対応にあたるリーダー層を育成するためのファシリテーターを養成する	赤十字ボランティア など 14人
防災教育事業指導者向け研修会（大雨・土砂災害）	9月30日	近年の大雨災害のメカニズムを学び、時系列毎に発表される気象情報の活用方法についての知識を深める（東京管区気象台による研修）	赤十字ボランティア など 80人
防災教育事業支部独自プログラム+ひなんじょたいけん研修	12月23日	当支部独自プログラムの実施に必要な知識・技術の習得及び、令和5年度に新たに追加されたカリキュラムを伝達する	赤十字ボランティア など 24人

● 災害救護訓練

日本赤十字社は、国の指定公共機関として災害時の救護活動にあたる重要な役割を担っています。ブロック内の支部や管内医療施設との合同訓練を実施し、医療救護班を構成する救護要員の養成、能力強化を図るほか、東京都や他機関が開催する訓練に参加し相互連携を強めることで、救護活動の総合力の向上にも力を注いでいます。

なお、令和6年1月以降に予定していた訓練・研修は、令和6年能登半島地震への対応により中止となりました。

◆ 救護員養成のための訓練・研修

訓練・研修名	実施日	内容	参加者
災害救護基礎研修	6月15日～16日	救護に関する講義・実技を通して救護要員の基礎的知識・技能を習得する	赤十字職員 35人 その他 2人
災害救護技能別研修 (こころのケア)	12月25日	日本赤十字社のこころのケアの仕組みと救護員の役割を理解し、災害時に活動できるこころのケア要員を養成する	赤十字職員 17人 その他 2人
緊急自動車講習 (警視庁交通安全教育センター)	10月19日、 12月21日	緊急走行に必要な知識と技術を習得する	赤十字職員 4人
支部災害対応総合訓練	中止	被災地支部の本部設置、運営訓練及び大規模災害時等に被災地に派遣される要員の救護対応能力の向上	—
一般緊急自動車運転技能者課程 (自動車安全運転センター安全運転中央研修所)	中止	緊急自動車の安全運転に必要な知識のほか、緊急走行時に必要な知識と技術を身に付ける	—
緊急車両実地走行訓練 (公益財団法人献血供給事業団)	8月18日、 10月20日	緊急走行時の留意事項やマイクによる広報を体験し、走行技術・知識の向上を図る	赤十字職員 4人
災害救護技能別研修 (情報・通信研修)	中止	災害対策本部要員として必要な情報の収集方法や通信機器の使用方法、その活用方法を身に付ける	赤十字職員 6人
こころのケア指導者 フォローアップ研修	中止	新興感染症まん延下のこころのケア活動の留意事項を理解し、指導者としての実践能力向上を図る	—
こころのケア研修	各施設 による	日本赤十字社のこころのケアの仕組みと救護員の役割を理解し、災害時に活動できるこころのケア要員を養成する	赤十字職員 129人
救護員としての赤十字 看護師研修	各施設 による	災害時に必要な看護専門職としての知識、技術、態度を有し、的確に判断し行動できる「赤十字看護師」を養成する	赤十字職員 78人

« 医療救護班編成状況 »

- 武藏野赤十字病院 ・・・ 13班
- 大森赤十字病院 ・・・ 5班
- 東京かつしか赤十字
母子医療センター ・・・ 2班
- 日赤医療センター ・・・ 12班
※本社直轄施設

合計 32班

救護班の標準編成	
医師	1人
看護師長	1人
看護師（または保健師／助産師）	2人
主事（事務管理要員）	2人

※必要に応じて薬剤師、臨床心理士 合計 6人等を編成に加える。

※血液救護班

災害時に輸血用血液を医療機関に供給する救護班を都内の血液センターに3班編成しています。

◆ 本社や第2ブロック支部における訓練・研修

訓練・研修名	実施日	内容	参加者
全国赤十字救護班研修	中止	日赤救護班の初動活動を強化するための技術を向上させる	—
原子力災害対応基礎研修会 (神奈川県支部担当)	7月21日	放射線環境下での救護活動に安全かつ安心して従事するための基本的知識と放射線防護資機材の使用方法を学ぶ	赤十字職員 8人
日本赤十字社災害医療 コーディネート研修	9月23日～24日	災害医療コーディネーションのための知識習得及びコーディネート活動に対する共通認識を醸成する	赤十字職員 5人
第2ブロック支部総合訓練 (埼玉県支部担当)	10月21日～22日	災害時の第2ブロック支部管内における広域支援活動を円滑に行い、統率のとれた災害救護活動を実践するための訓練	赤十字職員 15人
第2ブロック被災地支部 災害対策本部運営訓練 (千葉県支部担当)	中止	被災地支部の本部設置、運営訓練及び第2ブロック支部から被災地支部の災害対策本部に派遣する要員を対象とする本部設置・運営訓練	—
第2ブロック支部先遣要員訓練 (東京都支部担当)	中止	災害時に被害状況等のアセスメント調査のため迅速に現地に派遣する要員を養成する訓練	—



災害時を想定した救護所での訓練

◆ 東京都が実施する訓練および防災関係機関との連携を目的とした訓練など

訓練・研修名	実施日	内容	参加者
東京都・東村山市 合同総合防災訓練	9月1日、3日	自治体及び地域並びに各防災関係機関の相互連携の強化を図り、地域防災力の向上につなげる	赤十字職員 24人 赤十字ボランティア 30人
東関東自動車酒々井 PA (上り線) 防災拠点合同防災訓練	9月28日	首都直下地震が発生した場合の防災拠点の運用方法を確認するための実動訓練	赤十字職員 2人
足立区総合防災訓練	11月12日	自治体及び地域並びに各防災関係機関の相互連携の強化を図り、地域防災力の向上につなげる	赤十字職員 7人
国士館大学 & 日赤東京都支部 合同訓練	12月10日	国士館大学との防災に関する協定に基づき、学生ボランティア及び地域住民並びに赤十字医療救護班・赤十字防災ボランティアが連携した合同訓練	赤十字職員 9人
東京都災害医療頭上訓練	12月26日	二次医療圏ごとに、実災害を想定して傷病者の搬送、受け入れ医療機関の調整、医療救護班等の応援医療チームの養成や派遣などを机上で行う	赤十字職員 2人
日本災害医学会総会・学術集会 (日本災害医学会)	中止	災害医療や防災業務に携わる組織や個人が参加する学会	—

● 救援物資備蓄状況

	前年度繰越数	令和5年度受入数	令和5年度払出数	繰越数
毛 布	34,832	0	4,604	30,228
バスタオル	11,175	0	227	10,948
安眠セット	5,554	0	1,458	4,096
緊急セット	10,269	0	1,809	8,460
安眠マット	5,683	84	0	5,767
ブルーシート	1,720	0	0	1,720
タオルケット	1,970	0	0	1,970

● 地区・分区の災害救援用資材配備状況

※現保有数は新規整備された数を含む

	災害救護用車両		電動アシスト付自転車		屋外用テント(6本柱)		屋外用テント(4本柱)	
	現保有数	令和5年度 新規整備	現保有数	令和5年度 新規整備	現保有数	令和5年度 新規整備	現保有数	令和5年度 新規整備
千代田区	0台		0台		0張		0張	
中央区	1台		1台		0張		0張	
港区	0台		0台		0張		0張	
新宿区	0台		4台	1台	12張		8張	
文京区	1台	1台	6台	2台	1張		0張	
台東区	0台		0台		20張	1張	9張	1張
墨田区	1台		1台	1台	11張		14張	1張
江東区	0台		0台		4張		0張	
品川区	1台		1台		4張		8張	
目黒区	0台		3台	1台	10張		1張	
大田区	0台		6台	4台	39張		21張	
世田谷区	1台		7台	4台	23張		16張	1張
渋谷区	0台		0台		12張		7張	
中野区	1台		3台		19張	1張	13張	1張
杉並区	1台		0台		0張		2張	
豊島区	0台		1台	1台	9張	1張	7張	
北区	1台		2台	2台	29張		20張	1張
荒川区	0台		1台		0張		0張	
板橋区	0台		2台	2台	25張	1張	12張	1張
練馬区	1台		0台		8張		2張	
足立区	0台		4台		16張	1張	14張	1張
葛飾区	1台		0台		27張		11張	1張
江戸川区	1台		2台	1台	3張	1張	10張	
小計	11台	1台	44台	19台	272張	6張	175張	8張
八王子市	1台		0台		27張		9張	
立川市	2台		0台		25張	1張	0張	
武藏野市	0台		0台		14張	1張	5張	1張
三鷹市	1台		0台		16張		4張	
青梅市	1台		1台	1台	14張	1張	0張	
府中市	1台		1台		19張		0張	
昭島市	1台		3台		12張		19張	1張
調布市	2台		2台	1台	11張		5張	
町田市	1台		0台		18張		6張	
小金井市	0台		1台		4張		1張	
小平市	1台		2台		9張		7張	
日野市	1台		0台		1張	1張	1張	
東村山市	1台		0台		6張		0張	
国分寺市	1台		1台		9張		5張	
国立市	1台		3台	2台	4張		3張	
福生市	2台		0台		8張		1張	1張
狛江市	1台		0台		14張		2張	
東大和市	1台		1台	1台	3張		3張	
清瀬市	0台		3台	1台	5張		0張	
東久留米市	1台		2台		0張		1張	
武蔵村山市	2台		0台		21張		29張	
多摩市	0台		0台		15張		2張	1張
稲城市	1台		0台		31張		0張	
羽村市	2台		1台		39張		7張	
あきる野市	2台		0台		26張		4張	
西東京市	2台		1台		10張		2張	1張
小計	29台	0台	22台	6台	361張	4張	116張	5張
西多摩	3台	1台			34張		15張	1張
大島	7台		1台		13張		6張	
三宅	4台				3張		3張	
八丈	2台				5張		3張	
小笠原	3台				11張		0張	
小計	19台	1台	1台	0台	66張	0張	27張	1張
合計	59台	2台	67台	25台	699張	10張	318張	14張

	炊出釜		避難所用テント (ポール組立式テント)		避難所用テント (ワンタッチ式テント)		発電機	
	現保有数	令和5年度 新規整備	現保有数	令和5年度 新規整備	現保有数	令和5年度 新規整備	現保有数	令和5年度 新規整備
千代田区	0台		0張		0張		0台	
中央区	6台		0張		0張		0台	
港区	0台		0張		0張		0台	
新宿区	1台		2張		75張	45張	2台	1台
文京区	4台		0張		0張		0台	
台東区	18台		0張		11張		1台	
墨田区	0台		280張	20張	70張	40張	0台	
江東区	5台		73張		0張		0台	
品川区	0台		0張		18張		1台	
目黒区	10台		0張		1張		2台	
大田区	44台		366張	18張	37張	20張	19台	1台
世田谷区	3台		30張	11張	23張	18張	3台	1台
渋谷区	14台		0張		0張		0台	
中野区	16台		90張	1張	34張	15張	11台	1台
杉並区	0台		1張		14張		0台	
豊島区	2台	2台	0張		1張		1台	1台
北区	27台		51張	2張	25張	5張	13台	1台
荒川区	0台		37張		0張		1台	1台
板橋区	3台		1張	1張	0張		1台	1台
練馬区	0台		0張		15張	15張	0台	
足立区	17台	1台	0張		1張		2台	1台
葛飾区	19台		19張		19張	13張	7台	1台
江戸川区	17台		0張		2張		1台	1台
小計	206台	3台	950張	53張	346張	171張	65台	11台
八王子市	18台		0張		3張	3張	3台	1台
立川市	0台		0張		0張		0台	
武藏野市	4台		0張		2張		0台	
三鷹市	26台		0張		0張		0台	
青梅市	10台		0張		0張		0台	
府中市	14台		10張	10張	34張		9台	1台
昭島市	2台		7張	7張	0張		9台	
調布市	36台		0張		9張	9張	4台	
町田市	11台		401張	300張	31張		2台	1台
小金井市	3台		20張		14張		5台	1台
小平市	2台		0張		32張		9台	1台
日野市	2台		0張		48張	33張	0台	
東村山市	0台		0張		11張		0台	
国分寺市	6台		3張		1張		4台	
国立市	11台		44張		1張		2台	1台
福生市	12台		0張		4張		5台	1台
狛江市	21台		0張		13張		0台	
東大和市	12台		116張		12張		1台	1台
清瀬市	0台		28張		13張	10張	4台	1台
東久留米市	3台		0張		0張		6台	1台
武藏村山市	22台		13張		13張		2台	1台
多摩市	13台		0張		13張	4張	7台	
稻城市	24台		100張	20張	0張		0台	
羽村市	10台		24張		10張		3台	1台
あきる野市	5台		0張		0張		1台	
西東京市	6台		20張		47張	19張	7台	
小計	273台	0台	786張	337張	311張	78張	83台	12台
西多摩	21台		22張	2張	16張	2張	6台	
大島	16台		72張	2張	65張	20張	5台	1台
三宅	8台		4張		8張	8張	3台	1台
八丈	12台		184張		20張	10張	0台	
小笠原	4台		15張	5張	13張	5張	0台	
小計	61台	0台	297張	9張	122張	45張	14台	2台
合計	540台	3台	2,033張	399張	779張	294張	162台	25台

	LED投光器		エアーストレッチャー		ワンマンストレッチャー		自動ラップ式トイレ	
	現保有数	令和5年度 新規整備	現保有数	令和5年度 新規整備	現保有数	令和5年度 新規整備	現保有数	令和5年度 新規整備
千代田区	0台		1台		0台		0台	
中央区	1台		2台		0台		1台	1台
港区	0台		0台		0台		0台	
新宿区	2台	1台	1台		1台		11台	
文京区	0台		0台		0台		0台	
台東区	3台	1台	1台		1台		13台	10台
墨田区	2台	1台	0台		0台		0台	
江東区	0台		0台		0台		0台	
品川区	2台		0台		1台		11台	
目黒区	0台		0台		0台		0台	
大田区	3台	1台	7台	6台	8台	6台	34台	16台
世田谷区	3台	1台	6台	5台	5台	3台	17台	14台
渋谷区	0台		0台		0台		16台	15台
中野区	2台		1台	1台	4台	1台	13台	3台
杉並区	2台	1台	3台	3台	0台		0台	
豊島区	0台		6台	6台	3台		0台	
北区	3台	1台	2台	1台	3台	1台	20台	8台
荒川区	0台		23台	12台	0台		0台	
板橋区	1台	1台	1台	1台	1台	1台	0台	
練馬区	2台	1台	0台		2台	2台	27台	27台
足立区	2台	1台	0台		0台		0台	
葛飾区	3台	1台	10台	9台	18台	1台	19台	8台
江戸川区	5台	1台	1台	1台	0台		0台	
小計	36台	12台	65台	45台	47台	15台	182台	102台
八王子市	3台	1台	0台		3台	2台	37台	35台
立川市	0台		0台		0台		0台	
武蔵野市	0台		5台	3台	5台	3台	0台	
三鷹市	1台		0台		0台		0台	
青梅市	4台	1台	0台		0台		0台	
府中市	5台	1台	8台	1台	3台	1台	3台	3台
昭島市	5台	1台	0台		0台		0台	
調布市	4台	1台	4台	1台	0台		9台	9台
町田市	1台	1台	1台	1台	1台		1台	
小金井市	4台	1台	0台		0台		7台	4台
小平市	1台	1台	0台		3台		0台	
日野市	1台	1台	0台		0台		9台	3台
東村山市	0台		0台		0台		0台	
国分寺市	3台	1台	0台		0台		0台	
国立市	3台	1台	1台	1台	3台	2台	1台	
福生市	1台		0台		0台		6台	6台
狛江市	2台	1台	3台		0台		0台	
東大和市	5台	1台	0台		0台		7台	4台
清瀬市	4台	1台	0台		0台		0台	
東久留米市	4台	1台	0台		0台		0台	
武蔵村山市	2台	1台	0台		0台		0台	
多摩市	0台		7台		3台		10台	3台
稲城市	1台	1台	0台		0台		0台	
羽村市	4台	1台	3台	1台	3台	1台	5台	3台
あきる野市	2台		0台		0台		0台	
西東京市	1台		1台	1台	3台		10台	3台
小計	61台	18台	33台	9台	27台	9台	105台	73台
西多摩	7台		1台		1台	1台	13台	7台
大島	9台	1台	2台	1台	4台	3台	13台	4台
三宅	3台	1台	2台	1台	2台		0台	
八丈	1台		1台		0台		5台	
小笠原	0台		0台		0台		0台	
小計	20台	2台	6台	2台	7台	4台	31台	11台
合計	117台	32台	104台	56台	81台	28台	318台	186台

● 地区・分区との連携強化の取組み

災害時の連携強化及び地区・分区における赤十字事業の更なる推進のため、各地区・分区を訪問し、「事業部門打ち合わせ」を実施しています。

打合せでは各地区へ配備した救護資機材の活用状況を確認するほか、防災セミナーや講習といった赤十字事業、赤十字奉仕団などに関する意見交換を行い、互いに顔が見える関係性の構築を目指しています。

[令和5年度実施状況]

訪問地区	訪問日	備考
江東区	5月16日	
墨田区	6月8日	
千代田区		
品川区	7月13日	
目黒区		
豊島区	8月22日	
板橋区		
小平市	9月20日	
東村山市		

訪問地区	訪問日	備考
武蔵村山市	10月18日	
東大和市		
青梅市	11月22日	
西多摩		
羽村市	12月14日	
福生市		
町田市	1月16日	能登半島地震にかかる災害対応のため中止
八王子市		
小笠原(WEB)	2月14日	



各地区で保管している救護資機材を確認

● 救護ボランティア

東京都赤十字救護ボランティア活動推進協議会と連携して、災害発生時には救援物資の搬出や義援金の受付などの後方支援活動を担っています。

また、平時には赤十字災害救護ボランティア養成セミナーを実施しているほか、防災や災害救護に関する研修やセミナー、訓練などに参加し、災害対応能力の向上や技能維持に努めています。

◆ 赤十字災害救護ボランティア養成セミナー

令和5年10月1日に救護ボランティアとして活動するうえで必要となる基礎的な知識と技術の習得を目的としたセミナーを開催しました。セミナーには41人が参加し、救護資機材の取扱いや無線通信演習、炊き出し体験などを行いました。



担架の組み立て方法を学ぶ



ハイゼックスを用いた炊き出し体験

● 臨時救護の実施

公共性の高いイベントなどにおいて、救護班や東京都看護赤十字奉仕団員を派遣して臨時救護所を設置し、傷病者の発生に備えています。

令和5年度実施状況	86件	活動日数	取扱者数	班数	派遣人数
		133日	305人	133班	267人

● 赤十字エイドステーション（帰宅困難者支援所）

首都直下地震などの大規模災害時、職場や学校などから徒歩で帰宅する際に支援を行うためのエイドステーションを設置しています。

設置場所	隣接道路	設置年月
調布駅北口	旧甲州街道	平成14年1月
立川市砂川町	五日市街道	平成15年11月
府中市白糸台	甲州街道	平成15年12月
西東京市田無神社	青梅街道	平成17年3月
狛江市和泉多摩川	世田谷通り	平成18年3月

● 国内災害義援金　※令和5年4月1日～令和6年3月31日 東京都支部着金分

国内災害義援金は被災都道府県に設置される義援金配分委員会へ全額お送りします。

その後、同委員会で定める配分基準に従って市区町村など自治体へ配分され、被災地の方々の生活支援に役立てられます。

国内災害義援金名称	件数	金額
令和5年5月能登地方地震災害義援金	14件	683,130円
令和5年台風第2号等大雨災害義援金	5件	155,200円
令和5年6月30日からの大雨災害義援金	2件	75,000円
令和5年7月7日からの大雨災害義援金	13件	303,000円
令和5年台風第13号災害義援金	7件	84,365円
令和5年台風第6号災害義援金	1件	6,031円
令和6年能登半島地震災害義援金	387件	44,284,494円
合計	429件	45,591,220円

日常生活の中で突然起こる病気やけがから大切な人のいのちと健康を守るために、講習を通じて、応急手当などの知識と技術の普及活動を行っています。

令和5年度は新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類感染症になったことで、従来のように対面講習を開催できるようになりましたが、「いのちと健康を守る」ための知識と技術を一人でも多くの方へ届けるために、引き続きオンライン講習も活用しながら講習普及に努めました。

様々なニーズに対応した講習の実施

◆ オンライン講習

働き方改革によりリモートワークの普及が進んでいることや、育児や介護などにより対面講習への参加が難しい方への受講機会の提供を見据え、WEB会議ツールを用いたオンライン講習を行っています。自宅や職場などから誰でも気軽に参加することができ、身近なものを使って「いのちと健康を守る」ための知識と技術を学ぶことができます。

◆ 「やさしい日本語」と外国語を活用した講習

日本在住の外国人が傷病者のいる場所に遭遇した時などに、近くに居合わせた人と協力して手当できるようになることを目的として「やさしい日本語（難しい言葉の言い換えなど、相手に配慮した分かりやすい日本語）」と英語通訳を活用した救急法と幼児安全法の短期講習を開催しました。様々なバックグラウンドを持つ方が参加され、受講者からは「Please keep doing such a great work. (これからも素晴らしい取組みを続けてほしい)」といった声がありました。



やさしい日本語と英語通訳で一次救命処置を学ぶ

水の事故を防ぐ <水上安全法>

水辺における事故防止を目的として、都内の各小学校の依頼に基づき 3,902 人の児童に対して着衣泳指導を行いました。また、普及の担い手となる小学校の教員を対象とした着衣泳講習も開催し、学校教育への支援も実施しました。

令和 5 年 7 月 22 日には青梅市にある釜の淵公園で、5 回目となる河川講習を開催しました。川の流れを利用した岸にたどり着くための姿勢など実践的な内容が好評を呼び、30 人の定員を超える 53 人から申し込みがありました。当日は小中学生の親子など 34 人が参加し、「ライフジャケットの重要性を親子で一緒に学べた」「今後も継続してほしい」など、満足度の高い感想が多く寄せられました。



着衣の状態で「浮いて待つ」を実践



川で流されたときのための仰向けの姿勢を練習

子どものいのちを守る <幼児安全法>

幼稚園・保育園の教職員を対象としたプール活動における事故防止の講習を 4 回開催しました。より多くの方に受講いただけるよう園児の午睡の時間帯にオンラインで実施することで、662 人の方に参加いただきました。

また、小さなお子さんとも一緒に参加できる「ワンポイント講習」を 8 回開催し、70 人の参加がありました。



お子さんを連れて講習に参加する受講者

地域包括ケアシステム構築への取組み <健康生活支援講習>

地域での助け合い・支え合いの仕組みである地域包括ケアシステムの構築に向けた取組みの一環として、地域赤十字奉仕団対象に健康生活支援講習支援員養成講習を4回開催し、地域の安全・安心の担い手となる41人の支援員を養成しました。

また、稻城市にある東京都住宅供給公社の住宅内集会所において、住民の方々を対象とした「地域で支える認知症」の講習を実施しました。



認知症予防運動「コグニサイズ」を実施

● 指導員の養成

講習普及体制のさらなる充実を図ることを目的に、救急法、幼児安全法、健康生活支援講習の指導員を新たに30人養成し、救急法指導員の養成・育成にあたる救急法講師も新たに1人誕生しました。

また、コロナ禍により指導から遠ざかっていた指導員を対象に、指導に必要な知識と技術を磨きなおすためのフォローアップ研修を講習種別ごとに計14回行いました。

新規指導員養成

救急法……………21人

幼児安全法……………5人

健康生活支援講習………4人



指導実習で「教え方」を学ぶ

● 講習実施状況

救急法	令和 5 年度		令和 4 年度		令和 3 年度	
	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
基礎講習	88 回	2,264 人	62 回	1,227 人	15 回	210 人
救急員養成講習	45 回	1,202 人	28 回	655 人	10 回	168 人
短期講習（対面）	75 回	3,011 人	52 回	2,157 人	21 回	623 人
短期講習（オンライン）	41 回	3,726 人	41 回	3,870 人	152 回	17,097 人
合計	249 回	10,203 人	183 回	7,909 人	198 回	18,098 人

水上安全法	令和 5 年度		令和 4 年度		令和 3 年度	
	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
救助員Ⅰ養成講習	8 回	215 人	5 回	121 人	0 回	0 人
救助員Ⅱ養成講習	1 回	23 人	0 回	0 人	0 回	0 人
短期講習（対面）	30 回	3,126 人	17 回	2,970 人	2 回	21 人
短期講習（オンライン）	6 回	1,715 人	7 回	619 人	12 回	1,922 人
合計	45 回	5,079 人	29 回	3,710 人	14 回	1,943 人

幼児安全法	令和 5 年度		令和 4 年度		令和 3 年度	
	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
支援員養成講習	22 回	399 人	12 回	192 人	1 回	14 人
短期講習（対面）	50 回	1,034 人	31 回	732 人	12 回	210 人
短期講習（オンライン）	21 回	2,138 人	28 回	1,777 人	48 回	1,846 人
合計	93 回	3,571 人	71 回	2,701 人	61 回	2,070 人

健康生活支援講習	令和 5 年度		令和 4 年度		令和 3 年度	
	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
支援員養成講習	11 回	126 人	6 回	62 人	1 回	25 人
短期講習（対面）	32 回	847 人	37 回	1,006 人	7 回	164 人
短期講習（オンライン）	0 回	0 人	0 回	0 人	13 回	571 人
合計	43 回	973 人	43 回	1,068 人	21 回	760 人

3

国際活動

INTERNATIONAL ACTIVITIES

紛争やテロ組織などによる非人道的な行為、突如として発生する大規模な災害、そして疾病や貧困など、世界には私たちの想像を超える苦しみを抱えながら生きる人々が存在しています。赤十字は 150 年を超える歴史に裏付けられる経験と 191 の国と地域に広がるネットワークを活用して、幅広い国際支援活動を展開しています。

● 国際派遣

令和 5 年度は、東京都支部管内の赤十字医療施設から 3 人の職員を国際救援・開発協力活動へ派遣しました。

事業名	派遣先	派遣期間	所属施設	職種
タイ・カンボジア・ラオス・ベトナム国クラスター事務所保健要員	タイ王国 バンコクなど	令和 4 年 4 月～ 令和 5 年 6 月	大森赤十字病院	看護師
バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業	バングラデシュ人民共和国 コックスバザールなど	令和 4 年 10 月～ 令和 5 年 4 月	武藏野赤十字病院	看護師
バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業	バングラデシュ人民共和国 コックスバザールなど	令和 5 年 6 月～ 令和 6 年 5 月	東京かつしか赤十字母子医療センター	看護師

国際要員の養成

海外での人道支援活動に参加するためには、保健医療、安全管理、ロジスティクスなどの知識と技術を身につけるための研修・訓練を修了し、国際要員として登録される必要があります。

令和 5 年度は、以下の研修に東京都支部の職員が参加し、国際要員として活動するために必要なスキルの習得、向上に努めました。



手術や分娩にも対応可能な病院 ERU（テント型野外病院）の展開訓練



実際の活動を想定したシミュレーションの中で資機材の取扱いや心構えを学ぶ

研修名	日程	内容	参加者数
保健医療 ERU 管理要員基礎研修	8月 26 日～27 日	ERU の管理要員（関係機関との調整やロジスティクス等の管理運営業務を担う事務管理系の職員）としての役割や求められるスキルと基本的な業務を理解する	2人
保健医療 ERU 研修	10月 8 日～13 日	災害時の緊急救援として保健医療 ERU（診療所・病院）を運営するために必要な知識・技術などを習得する	2人
安全管理研修Ⅱ	11月 9 日～11 日	派遣先で自身の安全を確保できるよう、安全対策や危機管理の基礎的な知識・能力を身につける	1人

※ ERU (Emergency Response Unit) とは、緊急事態・大規模災害発生時に備え、いつでも出動可能な専門家とともに医療や給水衛生活動などが開始できる資機材をセットにしたチームです。

東京都支部×ルワンダ赤十字社「おえかきプロジェクト」

東京都支部は、令和2年度から行われているルワンダ共和国における事業への支援をきっかけに、ルワンダ赤十字社と協力して子どもたちやユース・ボランティアの交流などに取り組んできました。「おえかきプロジェクト」は『絵を描く道具がない』というルワンダの子どもたちの現状を知った日本の高校生が企画したもので、校内で呼びかけを行いクレヨン等の画材を集めました。事業の視察でルワンダを訪問した東京都支部の職員が思いの込められた画材を現地の小学校へ届けると、子どもたちは目を輝かせながら色とりどりのおえかきを楽しみました。



日本から届けられた画材でおえかきを楽しむルワンダの子どもたち

● NHK 海外たすけあい

災害や紛争、飢餓や病気などで苦しむ人々を救うため、毎年12月にNHKと協働で実施している募金キャンペーンです。

皆さまからのあたたかいご支援は、紛争によって発生した避難民や、頻発する台風、サイクロン、干ばつ、洪水といった自然災害、疾病リスクへの対応などに役立てられます。

令和5年度募集総額

863,841,244円

◆東京都支部の募集実績

受付場所	件数	受付額
東京都支部・管内施設	193 件	1,102,145 円
NHK 放送センター、NHK 各事業所	105 件	1,610,881 円
地方銀行	2 件	648,321 円
農協・漁協	1 件	100,000 円
合計	301 件	3,461,347 円

◆支援状況

支援	割合
紛争に伴う難民・避難民などへの対応	34.2%
頻発、激甚化する災害への対応	26.7%
人々のレジリエンスを高めるための取組み	33.1%
NHK 海外たすけあい募集資料など作製費	6.0%



JRC メンバーが街頭で募金活動

● 海外救援金 ※令和5年4月1日～令和6年3月31日 東京都支部着金分

海外救援金は、国際赤十字・赤新月社連盟や現地の姉妹社を通じて紛争や災害で苦しむ人々の支援に使われます。

海外救援金	件数	金額
中東人道危機救援金	7 件	27,635 円
バングラデシュ南部避難民救援金	4 件	3,132 円
アフガニスタン人道危機救援金	4 件	101,795 円
2023年アフガニスタン地震救援金	4 件	15,100 円
2023年アメリカ・ハワイ火災救援金	10 件	89,100 円
2023年モロッコ地震救援金	12 件	106,313 円
2023年リビア洪水救援金	6 件	21,100 円
イスラエル・ガザ人道危機救援金	19 件	3,845,355 円
ウクライナ人道危機救援金	37 件	4,222,155 円
2023年トルコ・シリア地震救援金	18 件	861,015 円
無指定海外救援金	3 件	55,000 円
合計	124 件	9,347,700 円

ウクライナ避難民への支援

ウクライナ各地で戦闘が激化してから2年以上が経過した今もなお、戦闘が終息することではなく、多くの人々の命や生活が脅かされています。

令和5年10月20～22日にあきる野市内で2泊3日のオータムキャンプを実施し、ウクライナから都内へ避難している子どもたち13人が参加しました。

母国と異なる生活環境から離れ、リラックスして互いに交流できる機会を提供することを目的としたもので、参加した子どもたちはハイキングをしたり、ウクライナの郷土料理「デルニ（じゃがいもパンケーキ）」を作ったり、自然の中でのびのびと楽しみました。

また、キャンプの企画・運営にはウクライナ友好協会やあきる野市赤十字奉仕団にもご協力をいただきました。



母国の郷土料理を作る子どもたち



葉っぱを使ったスタンプアートに挑戦

● 安否調査

ジュネーブ条約に基づき、紛争や国交がないなどの事情で連絡が取れない家族間の交信や、行方不明者の所在確認を関係機関と協力して行っています。

令和5年度調査依頼数

安否判明	安否不明	調査中	他支部へ追跡依頼	合計
0 件	0 件	0 件	—	0 件

日本赤十字社の活動は「困っている・苦しんでいる人の役に立ちたい」という思いを持ったたくさんのボランティアによって支えられています。令和5年度は多くの奉仕団がコロナ禍以前の活動を取り戻し、赤十字運動の担い手として、社会や地域のニーズに合わせた幅広い活動を行いました。

● 各赤十字奉仕団の活動

地域赤十字奉仕団、青年学生赤十字奉仕団、特殊赤十字奉仕団それぞれが、年間を通じて様々な活動を行いました。

◆ 会員増強に関する活動

5月の赤十字運動月間に、戸別訪問による活動資金募集や駅頭などでの広報資材配布による赤十字事業PRキャンペーンを実施しました。

実施回数 1,628回

実施人数 3,108人



駅頭で地域住民へ広報資材を配布

◆ 災害救護に関する活動

災害発生時の義援金募集活動のほか、地域の防災・救護訓練への協力など、平時からの備えのための活動を実施しました。

実施回数 119回

実施人数 874人



災害時に備え、炊き出し釜の使い方を学ぶ

◆ 青少年赤十字の普及・育成に関する活動

青少年赤十字加盟校・園への加盟登録式をはじめ、学校行事のサポートやリーダーシップ・トレーニング・センターでの指導補助、近隣の学校と協働したボランティア活動を実施しました。

実施回数 14 回

実施人数 124 人

◆ 献血推進に関する活動

献血会場でのチラシ配布や呼びかけ、事務的な補助のほか、ハンドケアなどの特殊な技術を活かして献血協力者の待機時間を有効に過ごしていただける時間を提供するなど、献血普及などへ協力しました。

実施回数 405 回

実施人数 1,477 人



献血会場へ来場した協力者へハンドケアを提供

◆ 救急法などの普及に関する活動

普及活動の担い手として救急法や健康生活支援講習を中心に赤十字講習を積極的に受講したほか、地域イベント等で三角巾を用いた応急手当の方法を来場者へ伝えるなど、いのちと健康を守るために知識と技術を普及する活動を実施しました。

実施回数 30 回

実施人数 268 人

◆ その他

赤十字病院や社会福祉施設での活動、老人福祉・障害児者福祉の向上のための活動、地域清掃、裁縫奉仕、種々のイベントにおいての運営協力など、幅広い奉仕団活動を行いました。

※実施回数、実施人数は東京都支部へ報告があった延べ数を記載

迷子相談ボランティア

令和5年5月3日～5日に恩賜上野動物園で青年学生赤十字奉仕団と救護ボランティアによる「迷子相談ボランティア」が4年ぶりに実施されました。多くの親子連れが来園する中、迷子を防止するための迷子札の配付や迷子の保護、捜索活動などを行いました。

また、5月20日～21日在日米空軍横田基地で開催されたイベントにおいても、青年学生赤十字奉仕団と赤十字語学奉仕団がアメリカ赤十字社のボランティアと協力して「迷子相談ボランティア」を行いました。

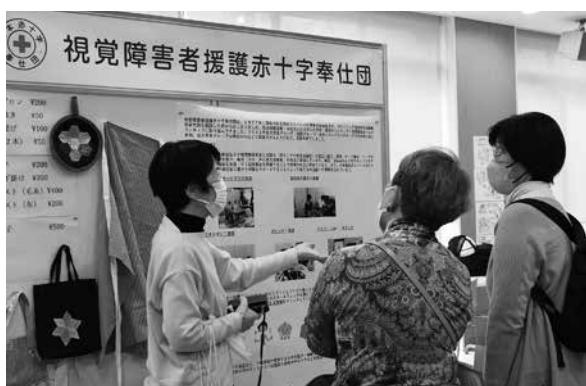


保護者とはぐれた子どもに寄り添う奉仕団員

赤十字ボランティアフェスティバル

令和6年3月2日に日本赤十字看護大学広尾キャンパスにて、赤十字ボランティアフェスティバルを開催し、赤十字奉仕団や青少年赤十字メンバーなど300人以上が参加しました。

第一部では奉仕団や青少年赤十字加盟校の活動発表や東京ボッチャ協会の方の講演、第二部ではブース形式での各奉仕団の活動紹介やバザー、ボッチャ体験などが行われ、普段は一緒に活動する機会の少ないボランティア同士が交流を深めました。



ブース展示で活動を紹介



他のボランティアメンバーとチームを組んで
ボッチャを体験

● 地域赤十字奉仕団

区市町村ごとに組織された奉仕団で、地域のニーズに合わせて、防災・減災、高齢者支援、学校と連携した活動などを行っています。

地区名	団員数
中央区	127人
港区	267人
新宿区	717人
文京区	387人
台東区	166人
品川区	2,832人
目黒区	607人
大田区	2,317人
世田谷区	1,471人
渋谷区	286人
中野区	1,323人
杉並区	48人
北区	1,368人

地区名	団員数
荒川区	1,695人
練馬区	113人
足立区	141人
葛飾区	318人
江戸川区	348人
八王子市	151人
立川市	144人
武蔵野市	506人
三鷹市	131人
府中市	137人
昭島市	57人
調布市	56人
町田市	87人

地区名	団員数
小金井市	24人
日野市	111人
国分寺市	18人
国立市	80人
狛江市	24人
東久留米市	27人
多摩市	61人
稲城市	33人
あきる野市	30人
西東京市	54人
大島町	502人
八丈町	113人

合計 38団 16,877人

◆赤十字奉仕団東京都支部委員会の活動

赤十字奉仕団東京都支部委員会

	開催日	会場	出席者数	内 容
第1回	4月19日	東京都支部	委員 110人 事務局職員 6人	<ul style="list-style-type: none"> ・役員改選について ・令和4年度東京都支部事業報告について ・令和4年度奉仕団関係行事報告について ・令和5年度東京都支部事業計画について ・令和5年度奉仕団関係行事予定について ・令和5年度赤十字活動資金募集計画について
第2回	1月12日		委員 90人 事務局職員 6人	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年能登半島地震にかかる日本赤十字社の対応について ・令和5年度主な奉仕団事業報告について ・令和6年度奉仕団関係行事予定について ・役員改選について ・血液事業（献血）にかかる協力依頼について ・災害に備えて～健康生活支援講習について～

赤十字奉仕団東京都支部委員会役員会及び地域赤十字奉仕団・特殊赤十字奉仕団委員長会議

	開催日	会場	出席者数	内 容
第1回	4月19日	東京都支部	委員会役員 10人 事務局職員 6人	令和5年度役員改選について
第2回	11月18日		委員長 25人 委員会役員 5人 事務局職員 5人	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度奉仕団事業報告について ・令和5年度赤十字ボランティアフェスティバルについて ・令和6年度奉仕団行事予定（案）について ・サロン活動をしてみませんか？ ・令和6年度赤十字奉仕団東京都支部委員会役員の改選

日本赤十字社第2ブロック赤十字奉仕団委員長・担当課長会議（東京都支部当番）

開催日	会場	参加者
11月10日	東京都支部	赤十字奉仕団東京都支部委員会 会長 東京都支部 事業部長兼青少年・ボランティア課長

赤十字奉仕団中央委員会（本社主催）

開催日	会場	参加者
6月1日～2日	本社	赤十字奉仕団東京都支部委員会 会長

◆奉仕団員対象研修会・講習会

赤十字ボランティア基礎研修

開催日	会 場	参加者数	内 容
9月 6日	東京都支部	29人	・赤十字の誕生と歴史 ・赤十字マーク ・赤十字の基本原則 ・ニーズとデザイナーの理解 ・赤十字ボランティアの特徴 ・活動の分野、種類
9月 12日		37人	
9月 25日		26人	

赤十字ボランティア・リーダーシップ研修

開催日	会 場	参加者数	内 容
10月 2日	東京都支部	27人	・赤十字の基本原則 ・ジュネーブ条約の理解 ・ボランティア活動の進め方 ・活動の推進力としてのリーダー ・避難所運営ゲーム（HUG）

健康生活支援講習（短期）

開催日	会 場	参加者数	内 容	
9月 15日	東京都支部	27人	災害に備えて	
		28人	認知症予防、車いす操作	
9月 21日		30人	災害に備えて	
		32人	認知症予防、車いす操作	

健康生活支援講習支援員養成講習

開催日	会 場	参加者数	内 容
9月 25日～26日	東京都支部	9人	・健康増進と高齢者に起こりやすい事故の予防や手当 ・地域での高齢者支援に役立つ基礎的知識と技術 ・日常生活の自立に向けた具体的な介護の知識と技術
9月 28日～29日		12人	
10月 10日～11日		11人	
10月 18日～19日		14人	

こころのケア研修

開催日	会 場	参加者数	内 容
12月11日	東京都支部	55人	被災者に対する接し方や援助者となる自分自身のケア方法など
12月12日		45人	

パラリンピック競技ボッチャ体験

開催日	会 場	参加者数	内 容
6月9日	東京都支部	27人	・東京ボッチャ協会副会長による講演 ・ボッチャの体験
6月14日		31人	
6月19日		40人	



心身のリラックスにつながるホットタオル作りを体験
(こころのケア研修)



地域活性化に向けボッチャ普及に取り組む
(パラリンピック競技ボッチャ体験)

● 青年学生赤十字奉仕団

大学生や35歳までのユースによって構成された奉仕団で、若い力やネットワーク、アイデアを活かし活動を行っています。

奉仕団名	団員数
跡見学園女子大学学生赤十字奉仕団	14人
駒澤大学学生赤十字奉仕団	18人
十文字学園女子大学学生赤十字奉仕団	23人
大東文化大学学生赤十字奉仕団	26人
拓殖大学ライフセイバーズ学生赤十字奉仕団	30人
玉川大学学生赤十字奉仕団	35人
中央大学学生赤十字奉仕団	1人
東京家政大学学生赤十字奉仕団	53人

奉仕団名	団員数
東京理科大学学生赤十字奉仕団	31人
日本赤十字看護大学学生赤十字奉仕団	54人
日本大学学生赤十字奉仕団	60人
日本薬科大学学生赤十字奉仕団	3人
明治大学学生赤十字奉仕団	27人
明星大学学生赤十字奉仕団	22人
早稲田大学学生赤十字奉仕団	2人
東京都青年赤十字奉仕団	80人

合計 16団 479人

◆青年学生赤十字奉仕団の活動

青年学生赤十字奉仕団協議会運営委員会

	開催日	会場	参加者数	内 容
第1回	4月 28日	東京都支部	協議会役員 3人 奉仕団役員 15人	・アイスブレイク ・活動報告 ・ポスターセッション「他団の活動を知ろう！」
第2回	8月 4日		協議会役員 2人 奉仕団役員 11人	・グループディスカッション「赤十字奉仕団に入団しようと思った理由」 ・ポスターセッション「他団の活動を知ろう！」
第3回	10月 18日		協議会役員 2人 奉仕団役員 16人	・活動報告 ・団を超えた活動の調査 ・グループワーク①「各団の課題について」 ・グループワーク②「やってみたい活動について」
総 会	12月 12日		協議会役員 4人 奉仕団役員 16人	・役員選挙結果報告 ・活動報告 ・グループワーク「振り返りと今後の活動について」

青年学生赤十字奉仕団協議会主催研修会

開催日	会 場	内 容
6月 23日	東京都支部	赤十字ボランティア基礎研修
6月 29日		赤十字ボランティア基礎研修
8月 10日		朗読赤十字奉仕団とのコラボ企画
9月 29日		救急法短期講習
11月 24日		炊き出し体験
2月 8日	玉川大学	赤十字ボランティア基礎研修

青年学生赤十字奉仕団リーダーシップ研修会

開催期日	会場	参加者数	内 容
3月 19 日	東京都支部	29 人	<ul style="list-style-type: none"> ・赤十字の基本原則とジュネーブ条約の理解について ・赤十字事業・基本原則・ジュネーブ条約について ・ボランティア活動の進め方とリーダーシップについて ・SNS の取り扱いについて ・令和 6 年度事業計画・重点項目 ・事務手続きについて

日本赤十字社第 2 ブロック青年赤十字奉仕団連絡協議会（山梨県支部当番）

区分	開催期日	会場	参加者数	内容
第 1 回	6 月 24 日	オンライン	協議会役員 1 人 担当職員 1 人	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・青年赤十字奉仕団全国協議会報告 ・赤十字ユース委員会について ・各都県活動報告 ・協議 ・照会事項確認
第 2 回	11 月 25 日～ 26 日	山梨県立図書館	協議会役員 1 人 担当職員 1 人	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者紹介 ・分科会（青年赤十字奉仕団代表者部会、支部担当者部会） 青年赤十字奉仕団代表者部会 支部担当者部会 ・全体会（分科会の報告） ・照会事項確認

● 特殊赤十字奉仕団

専門的な技術や資格を持った人たちにより組織され、災害救護、障がい者支援、ビューティーケアなど、専門性を活かした活動を行っています。

奉仕団名	団員数
東京安全赤十字奉仕団	111 人
東京都特殊救護赤十字奉仕団	27 人
三鷹市特殊赤十字奉仕団	30 人
視覚障害者援護赤十字奉仕団	59 人
町田市点訳赤十字奉仕団	21 人
東京指圧救護赤十字奉仕団	41 人
東京都看護赤十字奉仕団	71 人
ハンドケア・ビューティーケア赤十字奉仕団	51 人
JAL 労働組合客乗支部赤十字奉仕団	7 人

奉仕団名	団員数
東京都青少年赤十字賛助奉仕団	74 人
東京都ビューティーケア赤十字奉仕団	36 人
東京都 JHSA 赤十字奉仕団	16 人
朗読赤十字奉仕団	53 人
東京都ノルディックウォーキング赤十字奉仕団	12 人
東京都赤十字二輪奉仕団	19 人
東京都赤十字写真奉仕団	30 人
東京都隊友救護赤十字奉仕団	33 人
東京都フレイル地域支援赤十字奉仕団	86 人

合計 18 団 777 人

5

青少年赤十字

JUNIOR RED CROSS

青少年赤十字（JRC）は、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、いのちと健康を大切にし、地域社会や世界のために奉仕するこころ、そして世界の人々と分かり合う姿勢を育むことを目的として、日常生活や学校教育の中で様々な活動を展開しています。

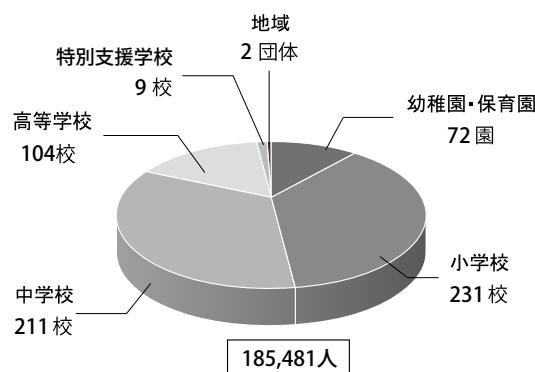
● 加盟登録状況

青少年赤十字は、学校や園がそれぞれの教育、保育方針に基づいて自主的に活動する「加盟登録制度」を採用しています。また、学校や園の実情に合わせて、指導者となる先生方の自由裁量により、主体的に活動を実践しています。

令和5年度末現在で、

東京都内の**629校（園）**が加盟しており、

185,481人 のメンバーが活動に参加しています。



	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	加盟校数	生徒数	加盟校数	生徒数	加盟校数	生徒数
幼稚園・保育園	72園	4,729人	73園	5,275人	76園	5,843人
小学校	231校	102,245人	226校	97,322人	226校	97,236人
中学校	211校	55,136人	210校	54,940人	212校	55,709人
高等学校	104校	22,055人	105校	26,903人	105校	25,592人
特別支援学校	9校	1,299人	8校	1,326人	8校	1,301人
地域	2団体	17人	2団体	24人	3団体	47人
合計	629校	185,481人	624校	185,790人	630校	185,728人

◆ 加盟登録式

令和5年度	令和4年度	令和3年度
19件 (資料・映像提供)	14件 (資料・映像提供)	10件 (資料・映像提供)

◆ その他 (国際救援講演、1円玉募金贈呈式等)

令和5年度	令和4年度	令和3年度
28件	22件	30件

● メンバー連絡協議会

青少年赤十字に加盟している学校や園の生徒、園児たちをメンバーと呼んでいます。

東京都支部は、中学生と高校生のメンバーで構成される協議会を開催して、メンバー同士の親睦を図りながら、目的の共有や青少年赤十字の活動を向上させるための取組みを行っています。

開催日	会場	参加者数	内 容
5月13日	東京都支部	44人	合同登録式、赤十字の七原則について
6月17日	東京都支部	62人	献血について
9月16日	東京都支部	47人	防災・減災について
11月11日	東京都支部	40人	国際理解・親善について
1月20日	東京都支部／オンライン	72人	赤十字でつながる輪（全国のJRCメンバーとの交流会）
3月16日	東京都支部	48人	クロスプロジェクト（ユースとの交流会）
合計		313人	



立候補による高校生メンバーが企画・運営



ゲームを通じて災害時の行動を考える

● 東京都青少年赤十字指導者協議会

青少年赤十字の直接の指導者である学校や幼稚園の教諭、保育士などが相互の活動における情報や研究結果等を共有し、よりよい指導を行うために協議会を組織しています。

[会議等]

名 称	開催日	参加者数
第1回運営委員会	6月1日	11人
第2回運営委員会	11月2日	8人
総 会	書面開催	—

[全国 / 第2ブロックの会議への参加]

名 称	開催日	参加者数
青少年赤十字全国指導者協議会総会	6月1日	11人
第2ブロック青少年赤十字指導者協議会・研究集会	8月18日	9人

● 各種研修会の開催

青少年赤十字指導者研修会（新任指導者研修）

開催日	会場	参加者数	内容
5月25日	小平市役所	14人	青少年赤十字について、活動校による事例発表、赤十字が提供できるメニューの紹介、心肺蘇生練習キット「あっぱくん」体験
6月29日	荒川区立南千住第二中学校	10人	

リーダーシップ・トレーニング・センター指導者養成研修

主催	開催日	会場	参加者数	内容
本社	5月26日～28日 (2泊3日)	国立オリンピック記念 青少年総合センター	1人	リーダーシップ・トレーニング・センターの指導者として必要な知識、技術を学ぶ青少年赤十字の理解と実践
東京都支部	中止	高尾の森 わくわくビレッジ	—	指導技法の習得を目指した学習各種体験学習 など

指導主事対象青少年赤十字研究会

開催日	会場	参加者数	内容
1月12日	本社	1人	講演、事例発表、分科会 など

● メンバー対象プログラム

リーダーシップ・トレーニング・センター（メンバー対象）

校種	開催日	会場	参加者数	内容
小学校	中止 (代替事業を実施)	高尾の森 わくわくビレッジ	-	赤十字概論、青少年赤十字の学習、福祉体験、健康安全プログラム、国際理解プログラム、フィールドワーク など
中学校				
高等学校				

国際交流集会

主催	開催日	会場	参加者数	内容
本社	11月23日～26日 (3泊4日)	国立オリンピック記念 青少年総合センター	2人	「気候変動対策と平和教育」をテーマに日本を含む10の国と地域のユースが参加



各国のJRC活動を紹介



他国のメンバーと共にテーマについてディスカッション

青少年赤十字スタディ・プログラム

主催	開催日	会場	参加者数	内容
本社	3月22日～26日 (4泊5日)	東照館	2人	高等学校における青少年赤十字活動の中心となるリーダーの養成

赤十字×チャレンジ（リーダーシップ・トレーニング・センターの代替事業として実施）

校種	開催日	会場	参加者数	内容
小学校	7月31日	東京都支部	4人	赤十字概論、ボランティアについて、福祉体験 など

JRC リーダーシップ×チャレンジ（リーダーシップ・トレーニング・センターの代替事業として実施）

校種	開催日	会場	参加者数	内容
中学校	8月16日	東京都支部	18人	赤十字概論、国際人道法、福祉体験、防災グループワーク、他校メンバーとの交流 など

JRC ワークショップ×チャレンジ（リーダーシップ・トレーニング・センターの代替事業として実施）

校種	開催日	会場	参加者数	内容
高等学校	8月2日～4日	東京都支部 ／オンライン	33人	ワークショップ（ボランティア活動）の企画、実施、発表
	10月28日			



視覚障がい者疑似体験（中学生）



ボランティア活動の進め方について意見交換（高校生）

● 国際理解・親善

◆ 国外の教育等支援事業のための募金活動

青少年赤十字メンバーが「1円玉募金」を集めたり、使用済み切手やプリペイドカードを収集し換金することにより資金を調達するなど、2か国（ネパール、バヌアツ）の姉妹社が実施する教育・衛生環境の改善などの活動を支援しています。

・1円玉募金

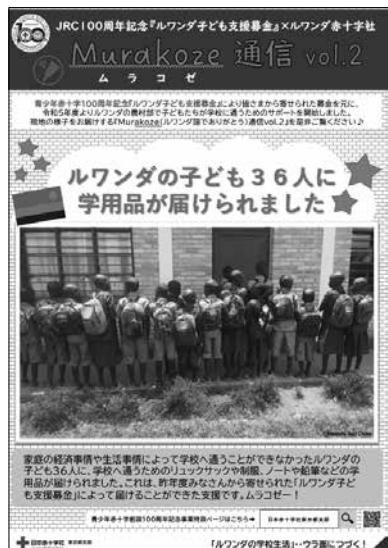
令和5年度	令和4年度	令和3年度
40件	28件	29件
350,632円	261,925円	341,734円

・ 使用済み切手・プリペイドカード

令和5年度	令和4年度	令和3年度
30件	27件	83件
10,600円	13,500円	11,000円

◆ JRC100周年記念事業「ルワンダ子ども支援募金」

令和4年度にJRC創設100周年記念事業として、ルワンダ共和国の子どもたちの教育支援を目的にJRC加盟校・園で実施した「ルワンダ子ども支援募金」により、ルワンダ赤十字社で事業が進められています。ルワンダとのつながりや子どもたちの関心を継続できるよう、協力いただいた加盟校・園に対し全3回にわたり「ムラコゼ通信」を発行し、基金の使い道やルワンダの子どもたちの様子を報告しました。（「ムラコゼ」とはルワンダ語で「ありがとう」。）



ルワンダの子ども達が学校に通えるよう支援を実施

©Rwanda Red Cross

「苦しんでいる人を救いたい」という赤十字の理念を広く普及し、一人でも多くの方に赤十字活動へ共感・参画していただけるよう、年間を通じて様々なキャンペーンを展開しています。赤十字奉仕団やボランティア、関係団体と協力・連携しながら、都内各地で地域に根ざした広報活動を行いました。

● 赤十字運動月間における PR 活動

昨年度に引き続き、東京都支部のある新宿区内の新宿大通り商店街、新大久保商店街において、街路灯に赤十字フラッグを掲揚し、5月の赤十字運動月間をPRしました。また、令和5年9月1日に関東大震災から100年の節目を迎えることから、都内4カ所の献血ルーム（新宿東口献血ルーム、有楽町献血ルーム、akiba:F 献血ルーム、献血ルームfeel）で、当時の被害状況や救護活動の様子を伝えるとともに、「自助」「共助」の必要性や、要配慮者に対する支援のほか、今後予測されている首都直下地震など大規模災害への「備え」を考えるパネル展示を行いました。



赤十字フラッグの掲揚（新大久保商店街）



献血ルーム feel での展示の様子

● メディアを活用した広報活動

より多くの方々に赤十字の事業内容についてご理解いただけるよう、ホームページやSNS（Facebook、X、Instagram、YouTube）を活用した活動の周知、地域FMラジオへの出演、また効果的なプレスリリースによるマスメディアへの露出機会の創出など、積極的な広報活動に努めました。



八王子のFMラジオに職員とJRCメンバーが出演

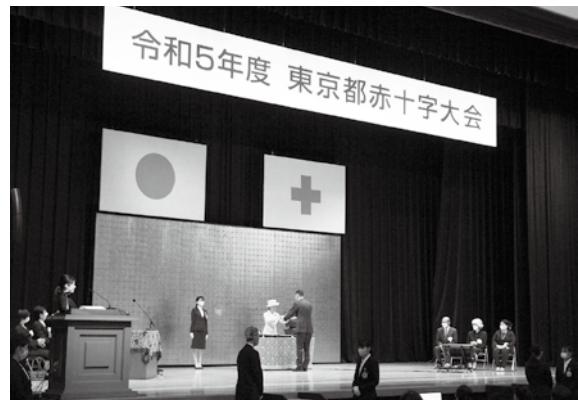
● NT（広報誌）の発行

季刊広報誌としてNT(Nisseki Tokyo)を発行し、四半期ごとの赤十字事業紹介のみならず、「聴覚障がい」「関東大震災」「低出生体重児・早産児」「気候変動」など、幅広く情報を提供しました。



● 東京都赤十字大会

ボランティア活動や多額のご寄付などにより、赤十字事業に一定のご協力をいただいた個人・法人を顕彰させていただくため、毎年10月に開催しています。令和5年度は、日本赤十字社名誉副総裁の常陸宮妃華子殿下の御臨席を賜り、明治神宮会館にて行いました。



妃殿下から表彰品を御授与賜る受章者

● 地域赤十字奉仕団による地区イベント参加

[地域まつり等への参加・協力]

開催日	行事	会場	奉仕団
4月1～2日	くにたちさくらフェスティバル	保谷第三公園	国立市
4月23日	文京つつじまつり	根津神社	文京区
4月29日	川の手荒川まつり	南千住野球場	荒川区
5月3～5日	多摩センターこどもまつり	京王小田急多摩センター駅	多摩市
5月4～5日	稲城手作り市民まつり	城山公園	稲城市
5月21日	調布市親子まつり	調布駅前広場	調布市
	健康フェスタ	エスフォルタアリーナ八王子	八王子市
8月5～6日	せたがやふるさと区民まつり	国士館大学世田谷キャンパス	世田谷区
8月11日	八丈町納涼花火大会	底度海岸	八丈町
8月25～26日	大江戸祭り盆踊り大会	浜町公園	中央区
8月27日	池上まつり	大田区立池上会館	大田区
10月7～8日	あだち区民まつり	荒川河川敷	足立区
	ふるさと北区民まつり	飛鳥山公園	北区
	みなと区民まつり	増上寺周辺	港区
10月21日	環境フェスタくにたち	国立市民芸術小ホール他	国立市
10月21～22日	Iのまちいなぎ市民まつり	稲城中央公園	稲城市
10月29日	世田谷パンまつり	世田谷公園	世田谷区
11月5日	国分寺まつり	都立武蔵国分寺公園	国分寺市
	くにたち秋の市民まつり	大学通り	国立市
11月25日	府中市民協働まつり	府中市民活動センタープラット	府中市
11月26日	福祉センターまつり	福祉センター	国分寺市
12月3日	昭島青少年フェスティバル	昭島市民会館公民館	昭島市
	防災フォーラム	西荻地域区民センター	杉並区
3月23日～24日	府中市民桜まつり	府中公園他	府中市

※報告があつた行事を記載

● 地域赤十字奉仕団による赤十字サポートキャンペーン

開催日	場所	奉仕団
4月 28 日	数寄屋橋公園	中央区
5月 1 日	JR 日野駅、JR 豊田駅、京王線高幡不動駅 JR 国立駅 JR 三鷹駅、JR 武蔵境駅、京王線三鷹台駅、 京王線井の頭公園駅	日野市 国立市 三鷹市
	JR 昭島駅	昭島市
5月 4 日	小田急・京王多摩センター駅	多摩市
5月 8 日	JR 立川駅 JR 三鷹駅、JR 吉祥寺駅、JR 武蔵境駅	立川市 武蔵野市
5月 9 日	市役所周辺	杉並区
5月 10 日、24 日	丸井上野店前、ココスナカムラ前	台東区
5月 10 日	JR 小金井駅、JR 東小金井駅	小金井市
5月 13 日	JR 国分寺駅	国分寺市
5月 30 日	JR 北千住駅	足立区

※報告があつた行事を記載

● 赤十字奉仕団による赤十字運動月間キャンペーン

開催日	場所	内容	奉仕団
5月 1 日～15 日	箪笥町出張所	赤十字パネル展	新宿区
5月 2 日～10 日	港区役所		港区
5月 13 日	東久留米市役所		東久留米市
5月 16 日	立川市役所		立川市
5月 15 日～19 日	自衛隊地方協力本部	PR 活動	東京都隊友救護
5月 23 日～26 日	フォーリス光と風の広場		府中市

※報告があつた行事を記載

東京都支部の活動は、個人や法人の皆さまからのご寄付によって支えられています。令和5年度も、各地区・分区や赤十字奉仕団のご協力を得ながら、様々な形でのあたたかいご支援をいただきました。

● 会員（社員）の登録状況

東京都支部の活動は、年額2,000円以上のご協力をいただく個人及び法人の会員により支えられています。

令和5年度		令和4年度		令和3年度	
個人	法人	個人	法人	個人	法人
34,660人	7,138社	34,917人	7,712社	34,263人	8,578社

※社員制度の見直しにより、平成29年4月1日から社員を会員と呼称変更し、2,000円以上のご協力者で会員への登録を希望された方を会員としています。

● 活動資金の募集

◆ 活動報告と協力依頼のダイレクトメール

都民と都内の法人の皆さんに、東京都支部の活動を広く周知し協力を依頼するため、定期的にダイレクトメールを発送しています。

[個人向け協力依頼]

	内容	発送時期	発送数
第1回	通常	4月	80,000件
第2回	通常	7月	25,000件
第3回	報告	9月	9,000件
第4回	通常	11月	35,500件
第5回	お礼	3月	19,000件
合計			168,500件

[法人向け協力依頼]

	内容	発送時期	発送数
第1回	通常	4月	80,000件
第2回	通常	7月	12,000件
第3回	通常	9月	7,500件
第4回	報告	9月	3,500件
第5回	通常	11月	16,000件
第6回	通常	2月	14,500件
第7回	周年勧奨	3月	5,000件
第8回	お礼	3月	5,000件
合計			143,500件

◆活動資金の実績額

令和5年度は、目標額の159.1%となる1,973,269,373円のご寄付をいただきました。

	地区	一般	法人	合計
令和5年度目標額	615,950,000円	374,050,000円	250,000,000円	1,240,000,000円
令和5年度実績額	608,699,743円	963,210,131円	401,359,499円	1,973,269,373円
目標達成率	98.8%	257.5%	160.5%	159.1%

※一般的な納入実績には、個人住民税控除対象海外救援金（2023年トルコ・シリア地震救援金、2023年モロッコ地震救援金、2023年リビア洪水救援金、2023年アフガニスタン地震救援金）53,052,384円を含みます。

※令和5年度地区扱い実績額について、同年度期中に過年度分の返金が発生したことを受け、上記実績額と決算報告書「社資収入額」に10,000円の差額が発生しています。

[実績額内訳]

			実績額	目標額	達成率
令和5年度	地区	区	496,823,721円	445,593,000円	111.5%
		市	105,050,981円	164,761,000円	63.8%
		町村	4,689,151円	5,596,000円	83.8%
		地区不特定	2,135,890円	—	—
		小計	608,699,743円	615,950,000円	98.8%
	支部	一般	963,210,131円	374,050,000円	257.5%
		法人	401,359,499円	250,000,000円	160.5%
		小計	1,364,569,630円	624,050,000円	218.7%
	合計		1,973,269,373円	1,240,000,000円	159.1%
令和4年度	地区	区	467,027,939円	445,593,000円	104.8%
		市	118,249,804円	164,761,000円	71.8%
		町村	4,899,728円	5,596,000円	87.6%
		地区不特定	2,089,890円	—	—
		小計	592,267,361円	615,950,000円	96.2%
	支部	一般	1,108,185,893円	374,050,000円	296.3%
		法人	403,547,013円	210,000,000円	192.2%
		小計	1,511,732,906円	584,050,000円	258.8%
	合計		2,104,000,267円	1,200,000,000円	175.3%
令和3年度	地区	区	502,098,507円	445,593,000円	112.7%
		市	104,350,482円	164,761,000円	63.3%
		町村	4,893,732円	5,596,000円	87.5%
		地区不特定	188,500円	—	—
		小計	611,531,221円	615,950,000円	99.3%
	支部	一般	1,052,980,603円	374,050,000円	281.5%
		法人	446,382,501円	200,000,000円	223.2%
		小計	1,499,363,104円	574,050,000円	261.2%
	合計		2,110,894,325円	1,190,000,000円	177.4%

[地区別実績]

地区名	実績額	(実績額内訳)					目標額	達成率
		地区募集額	預金口座振替	クレジットカード	Pay決済	その他		
千代田区	12,660,962	1,637,420	1,535,000	9,488,542	0	0	2,910,000	435.1%
中央区	10,162,700	1,749,600	1,697,000	6,715,600	500	0	4,835,000	210.2%
港区	25,519,973	2,871,001	2,687,500	19,961,472	0	0	8,763,000	291.2%
新宿区	13,255,083	4,343,645	2,740,000	5,168,938	500	1,002,000	11,236,000	118.0%
文京区	18,091,388	6,870,238	902,000	10,317,850	1,300	0	14,629,000	123.7%
台東区	11,512,364	5,147,064	1,368,000	4,997,300	0	0	8,005,000	143.8%
墨田区	10,221,478	5,538,785	663,000	4,019,693	0	0	11,061,000	92.4%
江東区	16,267,427	10,025,817	1,632,000	4,609,610	0	0	16,420,000	99.1%
品川区	21,558,397	12,642,901	2,147,000	6,762,496	6,000	0	20,678,000	104.3%
目黒区	21,038,514	15,173,978	1,452,000	4,412,036	500	0	18,276,000	115.1%
大田区	45,993,684	36,090,416	2,400,000	7,478,768	500	24,000	43,367,000	106.1%
世田谷区	48,553,068	28,434,066	4,279,000	15,838,002	2,000	0	58,917,000	82.4%
渋谷区	21,011,349	7,468,737	1,276,500	12,261,612	4,500	0	16,818,000	124.9%
中野区	24,152,951	17,948,927	1,212,000	4,992,024	0	0	19,958,000	121.0%
杉並区	19,467,533	8,559,262	2,133,000	8,771,383	3,888	0	27,689,000	70.3%
豊島区	13,703,729	7,055,579	1,295,000	5,353,150	0	0	14,284,000	95.9%
北区	29,754,479	25,388,953	1,549,000	2,816,526	0	0	19,150,000	155.4%
荒川区	12,079,245	9,101,921	710,000	2,267,324	0	0	9,466,000	127.6%
板橋区	19,250,323	10,589,723	1,800,000	6,860,600	0	0	22,380,000	86.0%
練馬区	16,858,708	6,696,340	3,021,000	7,138,368	3,000	0	30,054,000	56.1%
足立区	34,973,832	21,956,202	2,791,000	10,226,630	0	0	23,751,000	147.3%
葛飾区	26,052,566	21,780,810	1,081,000	3,188,756	2,000	0	21,202,000	122.9%
江戸川区	24,683,968	16,823,633	2,313,000	5,543,835	3,500	0	21,744,000	113.5%
小計	496,823,721	283,895,018	42,684,000	169,190,515	28,188	1,026,000	445,593,000	111.5%
八王子市	14,977,565	9,970,665	1,425,100	3,581,300	500	0	17,509,000	85.5%
立川市	5,207,275	3,466,330	725,000	1,012,945	3,000	0	6,628,000	78.6%
武蔵野市	8,189,155	4,431,655	614,000	3,143,500	0	0	8,947,000	91.5%
三鷹市	6,281,635	3,443,618	538,000	2,300,017	0	0	9,052,000	69.4%
青梅市	3,409,498	2,514,498	611,000	284,000	0	0	4,980,000	68.5%
府中市	4,693,019	2,543,019	587,000	1,505,000	0	58,000	9,208,000	51.0%
昭島市	3,253,930	2,370,930	63,000	820,000	0	0	4,371,000	74.4%
調布市	7,655,146	4,549,246	1,225,000	1,713,800	0	167,100	10,663,000	71.8%
町田市	7,354,340	2,838,757	1,373,000	3,140,583	0	2,000	14,975,000	49.1%
小金井市	4,332,275	2,638,275	660,000	1,034,000	0	0	5,964,000	72.6%
小平市	4,573,880	2,332,880	1,089,000	1,152,000	0	0	7,706,000	59.4%
日野市	3,013,702	1,153,202	317,000	1,543,500	0	0	6,941,000	43.4%
東村山市	2,610,053	1,324,028	406,000	860,025	20,000	0	5,972,000	43.7%
国分寺市	4,152,113	2,256,313	504,000	1,391,800	0	0	5,382,000	77.1%
国立市	3,269,628	2,354,628	93,000	822,000	0	0	3,771,000	86.7%
福生市	2,541,162	1,918,882	20,000	602,280	0	0	3,306,000	76.9%
狛江市	1,458,097	134,097	246,000	1,078,000	0	0	3,782,000	38.6%
東大和市	1,261,890	402,890	181,000	668,000	0	10,000	3,227,000	39.1%
清瀬市	566,440	211,440	93,000	262,000	0	0	3,018,000	18.8%
東久留米市	2,239,850	1,185,850	596,000	458,000	0	0	5,103,000	43.9%
武蔵村山市	711,901	541,901	38,000	132,000	0	0	2,556,000	27.9%
多摩市	2,443,602	776,602	679,000	988,000	0	0	4,636,000	52.7%
稲城市	2,934,341	1,948,141	314,000	671,700	500	0	2,564,000	114.4%
羽村市	2,214,236	1,799,236	51,000	364,000	0	0	1,934,000	114.5%
あきる野市	3,256,509	2,992,509	104,000	160,000	0	0	3,402,000	95.7%
西東京市	2,449,739	796,386	606,000	1,045,353	0	2,000	9,164,000	26.7%
小計	105,050,981	60,895,978	13,158,100	30,733,803	24,000	239,100	164,761,000	63.8%
西多摩	2,162,351	1,949,351	149,000	64,000	0	0	2,632,000	82.2%
大島	2,058,605	1,983,605	22,000	53,000	0	0	1,350,000	152.5%
三宅	74,000	54,000	10,000	10,000	0	0	321,000	23.1%
八丈	189,695	89,695	100,000	0	0	0	1,075,000	17.6%
小笠原	204,500	204,500	0	0	0	0	218,000	93.8%
小計	4,689,151	4,281,151	281,000	127,000	0	0	5,596,000	83.8%
地区不特定	2,135,890	0	125,000	2,005,890	5,000	0	—	—
合計	608,699,743	349,072,147	56,248,100	202,057,208	57,188	1,265,100	615,950,000	98.8%

※令和5年度地区扱い実績額について、同年度期中に過年度分の返金が発生したことを受け、上記実績額と決算報告書「社資収入額」に、10,000円の差額が発生しています。

◆ 様々な方法によるご協力

活動資金は、郵便局・銀行での振り込み、自動口座引き落としやクレジットカードでの決済、ホテルや店舗などへのチャリティーボックスの設置、香典返しに代えての寄付、遺贈・相続財産の寄付等、様々な方法によってご協力いただきました。

	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
チャリティーボックスでの寄付	83件	3,106千円	111件	229千円	125件	1,568千円
香典返しに代えての寄付	2件	5,100千円	3件	460千円	4件	500千円
遺贈・相続財産の寄付	28件	151,655千円	16件	78,500千円	36件	253,155千円

◆ 国家表彰

年度内に一定以上の金額を活動資金にご協力いただいた個人・法人に対しては、その金額に応じて、国の表彰・褒章制度である「厚生労働大臣感謝状」や「紺綏褒章」の授与申請を行っています。令和5年度は、申請により個人60人、法人12社が受章しました。

	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	個人	法人	個人	法人	個人	法人
厚労大臣感謝状	29人	3社	30人	2社	23人	5社
紺綏褒章	31人	9社	44人	12社	36人	14社
合計	60人	12社	74人	14社	59人	19社

また、これ以外にも、日本赤十字社独自の表彰制度により、「東京都赤十字大会」において、多額のご協力をいただいた個人・法人に対し「有功章」や「感謝状」を授与しています。詳細は、39ページ「東京都赤十字大会」をご参照ください。

医療事業

● 医療事業体制の概況

都内3か所の赤十字医療施設は、地域における中核的、公的医療機関として、救急医療、へき地専門診療などに取り組むとともに、災害時には国内外の被災地に医師・看護師を派遣し、救護活動の拠点となる機能も備えています。

施設名	許可病床数	診療科数	患者数（延数）		病床利用率
			入院	外 来	
武藏野赤十字病院	611床	33科	202,074人	280,569人	91.7%
大森赤十字病院	344床	25科	94,562人	141,676人	75.4%
東京かつしか赤十字母子医療センター	104床	2科	26,029人	39,871人	72.5%

● へき地専門診療

地域において確保困難な専門診療を実施することにより、地域医療の確保と充実を図ることを目的に実施しています。

	実施期間	診療科目	受診者数	派遣施設	派遣人員
利 島 村	6月1日～4日	眼 科	80人	武 藏 野 赤 十 字 病 院	2人
	4月27日～29日	整 形 外 科	58人		2人
三 宅 村	5月31日～6月2日	整 形 外 科	38人	武 藏 野 赤 十 字 病 院	1人
	10月4日～6日		32人		1人
	1月31日～2月2日		26人		1人
御 藏 島 村	6月19日～20日	耳 鼻 咽 喉 科	42人	武 藏 野 赤 十 字 病 院	2人
	10月2日～3日	整 形 外 科	11人	大 森 赤 十 字 病 院	3人
	11月6日～7日	小 児 科	22人	東京かつしか赤十字母子医療センター	2人
青 ケ 島 村	4月18日～19日	耳 鼻 咽 喉 科	14人	武 藏 野 赤 十 字 病 院	2人
	5月24日～26日	整 形 外 科	22人	大 森 赤 十 字 病 院	3人
	11月8日～10日		11人		3人
小 笠 原 村	1月25日～2月4日	整 形 外 科	93人	武 藏 野 赤 十 字 病 院	3人
合 計	5島12回	4科	449人	3施設	25人

※「受診者数」には、保育園検診及び学校健診が含まれています。

武蔵野赤十字病院

● 基本理念

病む人への愛 同僚と職場への愛 地域住民と地域への愛 地球・自然・命への愛

● 基本方針

- ・新病棟建築に向けて高度急性期病院としての機能を強化します
- ・地域がん診療拠点病院として、がん診療の充実に努めます
- ・周産期医療と小児・新生児医療の質の向上を図ります
- ・病院機能の質を高めるためにプロフェッショナリズムを確立します
- ・災害救護や国際救援を通じて社会に貢献します

● 重点項目への取組み

◆質の高い医療の提供

- ・地域がん診療連携拠点病院として、がんゲノム医療やロボット支援手術などの高度低侵襲治療の水準を高めるよう取り組んでいます。また、外来化学療法や緩和ケア、がんリハビリテーション、仕事と治療の両立支援などの更なる充実を図ります。

手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いた手術件数 249 件（前年度比 78 件増）

- ・地域のニーズに応えるため、増加するハイリスク分娩や産後ケアなどへの対応を強化しました。

◆新病棟の建築

- ・令和 4 年 3 月から始まった新病棟の建設工事は、地盤改良などの土工事を令和 5 年 7 月で終了し、建物本体の鉄骨の組み上げを開始しました。令和 5 年度末時点で地上 3 階まで完成しています。
- ・工事開始当初の資材不足によるスケジュールの延伸以外は順調に進行しており、令和 7 年 12 月に新病棟開院を迎える予定です。

◆地域・社会への貢献

- ・令和 6 年 4 月から開始される医師の働き方改革の影響により、二次医療圏内における救急搬送件数の増加が想定されたため、令和 6 年 1 月中旬より新たに救命救急科の下部組織として救急診療科（院内組織）を開設し、救急車の受入体制を強化しました。

救急車受入れ件数 11,048 件（前年度比 571 件増）

うち、三次救急の受入れ件数 1,873 件（前年度比 55 件増）

- ・令和 6 年能登半島地震への対応として、発災翌日から医療救護班やこころのケア班を現地へ派遣したほか、日本赤十字社の国際救援・開発協力活動にも看護師 1 人を派遣しました。

大森赤十字病院

● 基本理念

信頼され心あたたまる病院

● 基本方針

- ・安全で質の高い医療を提供します
- ・救急医療を充実し地域医療に貢献するよう努めます
- ・災害救護に積極的に取り組みます
- ・経営の健全化を図りその成果を医療活動に還元します
- ・医療従事者の教育と研究を推進します
- ・ワークライフバランスを尊重した職場環境の整備を進めます

● 重点項目への取組み

◆がん診療と救急医療を柱とした急性期医療の充実

- ・からだに負担の少ない低侵襲治療を充実させるため、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入したほか、緩和ケア病棟を新設しました。
- ・地域医療を支えるため、救急車の受入れに力を入れています。より多くの救急患者の受入ができるよう、救急外来の拡張工事を行いました。

救急車受入れ件数 6,698 件（前年度比 1,160 件増）

◆地域における医療連携の推進

- ・地域の診療所及びクリニックとの連携強化を目的として、担当医師や地域涉外担当者による連携先への訪問を強化しました。
- ・退院支援システムを導入し、地域医療機関とのより円滑な連携を目指し取り組んでいます。
紹介率 91.7%（前年度 85.6%）
逆紹介率 116.7%（前年度 96.6%）

◆医療 DX の推進

- ・患者サービスの向上やデータ収集のため、タブレットによる Web 問診システムを導入しました。
- ・業務の効率化のため、勤怠管理の事務作業を自動化できるソフトウェアロボット技術（RPA）を導入しました。

◆その他

- ・地域に開かれた病院として、大田区災害時医療フォーラムの開催に協力しました。
- ・令和 6 年能登半島地震への対応として、医療救護班やこころのケア班等を現地へ派遣したほか、災害対応訓練や航空機事故対処総合訓練、こころのケア研修会等に参加し、災害時の対応能力の向上に努めました。
- ・日本赤十字社の国際救援・開発協力活動に看護師を 1 人派遣しました。

東京かつしか赤十字母子医療センター

● 基本理念

赤十字精神に基づき、女性と子どもとそしてその周囲の人と環境にやさしい病院

● 基本方針

- ・質の高い医療の実践
- ・地域社会への貢献
- ・教育の推進
- ・健全な経営と働きやすい職場環境
- ・災害救護活動への貢献

● 重点項目への取組み

◆質の高い医療の実践

- ・東京都区東北部医療圏における地域周産期母子医療センターとして、地域の医療機関からの母体搬送並びに新生児搬送の積極的な受け入れを実施しました。
- ・分娩件数の減少に対する取組みとして、周辺の医療機関との連携を強化し、セミオープンシステム（検診は診療所・出産は当院）、バックアップシステム（何かあった時に連携病院と当院がサポート）を進めました。
セミオープンシステムの紹介件数：278 件
バックアップシステムの紹介件数：194 件
- ・産後ケアについては、契約地域を増やすため、未契約自治体への電話・パンフレット配布などの取組みを行い、187 件の実績となりました。

◆地域社会への貢献

- ・当院の存在をアピールし患者増につなげるため、救急法等の赤十字講習を実施したほか、小・中学生を対象とした命の授業を 7 件、商業高校での職業インタビューを実施するなど地域のニーズに合わせた講演を行いました。
- ・1 階に併設されている区立図書館との連携事業として、当院で出産された方へ配布している絵本の選定にご協力いただきました。

◆新病院や地域連携に対応した災害対策と職員の能力向上

- ・東京都の総合防災訓練や葛飾区の医療救護訓練、消防総合訓練などに参加し、災害救護活動に係る職員の意識や能力の向上に努めました。
- ・令和 6 年能登半島地震への対応として、医療救護班やこころのケア要員、ロジスティクス要員を現地へ派遣しました。
- ・日本赤十字社の国際救援・開発協力活動に看護師を 1 人派遣しました。

血液事業

● 血液事業体制の概況

都内 13 か所にある献血ルームでは、快適に献血できるように地域環境に適応した施設設計や接遇内容の工夫に努めています。また、血液センターでは輸血用血液製剤の安定的な供給に努めています。

令和 5 年度は、血しょう成分献血専用の「東京八重洲献血ルーム」が新たにオープンしました。

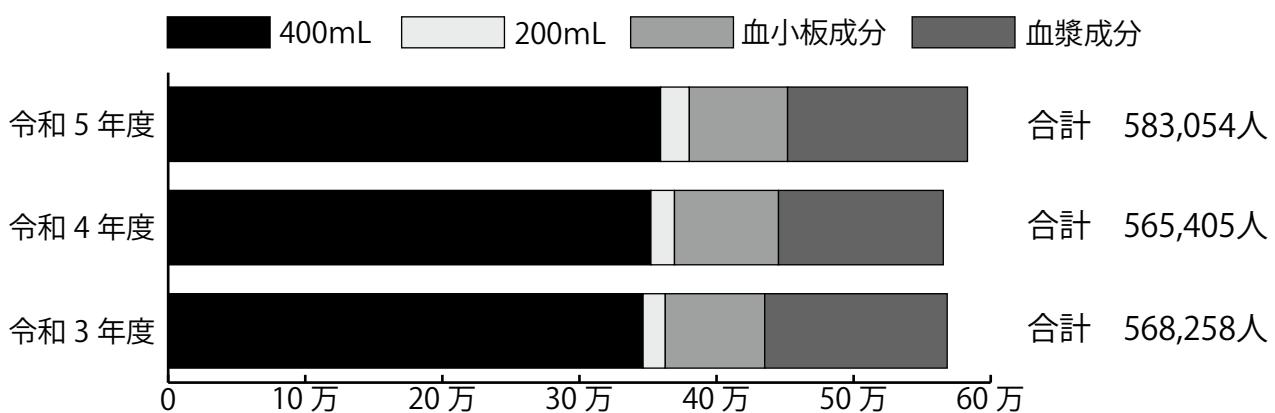
新宿区	新宿西口献血ルーム	千代田区	有楽町献血ルーム	立川市	立川献血ルーム
	都庁献血ルーム		akiba:F 献血ルーム	武蔵野市	献血ルーム吉祥寺タキオン
	新宿東口献血ルーム	中央区	東京八重洲献血ルーム	町田市	まちだ献血ルームcomfy
墨田区	献血ルーム feel	豊島区	献血ルーム池袋い～すと		
渋谷区	ハチ公前献血ルーム		献血ルーム池袋ぶらっと		

● 事業報告

◆都内の献血者数と供給状況

令和 5 年度は、都内で述べ 583,054 の方に献血のご協力をいただきました。また、血液製剤を 2,313,016 本（200mL 換算）都内の医療機関に供給しました。

【献血方法別献血者数推移】



【献血方法別献血者数】

	令和 5 年度		令和 4 年度		令和 3 年度	
	献血者数	比率	献血者数	比率	献血者数	比率
400mL 献 血	359,179 人	61.6%	352,120 人	62.3%	346,409 人	61.0%
200mL 献 血	20,973 人	3.6%	17,201 人	3.0%	16,210 人	2.9%
血小板成分献血	71,658 人	12.3%	75,885 人	13.4%	72,506 人	12.8%
血漿成分献血	131,244 人	22.5%	120,199 人	21.3%	133,133 人	23.4%
合 計	583,054 人	—	565,405 人	—	568,258 人	—

【受入施設別献血者数】

	令和 5 年度		令和 4 年度		令和 3 年度	
	献血者数	比率	献血者数	比率	献血者数	比率
母 体	42 人	0.0%	46 人	0.0%	371 人	0.1%
献血 ルーム	445,964 人	76.5%	432,901 人	76.6%	434,368 人	76.4%
献血 バス	100,931 人	17.3%	102,043 人	18.0%	108,944 人	19.2%
オーブン方式	36,117 人	6.2%	30,415 人	5.4%	24,575 人	4.3%
合 計	583,054 人	—	565,405 人	—	568,258 人	—

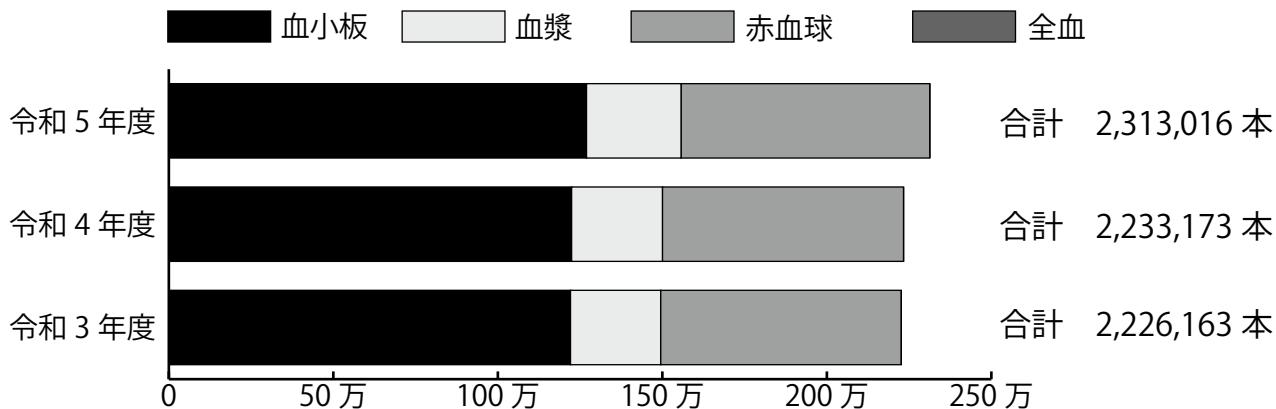
【年代別献血者数】

	令和 5 年度		令和 4 年度		令和 3 年度	
	献血者数	比率	献血者数	比率	献血者数	比率
10 代 (16 歳～)	24,450 人	4.2%	24,493 人	4.3%	21,481 人	3.8%
20 代	102,070 人	17.5%	101,793 人	18.0%	100,955 人	17.8%
30 代	97,080 人	16.7%	97,359 人	17.2%	102,981 人	18.1%
40 代	127,485 人	21.9%	128,651 人	22.8%	139,139 人	24.5%
50 代	167,042 人	28.6%	155,364 人	27.5%	150,966 人	26.6%
60 代	64,927 人	11.1%	57,745 人	10.2%	52,736 人	9.3%
合 計	583,054 人	—	565,405 人	—	568,258 人	—

【職業別献血者数】

	令和 5 年度		令和 4 年度		令和 3 年度	
	献血者数	比率	献血者数	比率	献血者数	比率
会 社 員	362,561 人	62.2%	348,867 人	61.7%	351,292 人	61.8%
公 務 員	60,008 人	10.3%	57,067 人	10.1%	56,471 人	9.9%
学 生	56,552 人	9.7%	56,374 人	10.0%	50,874 人	9.0%
そ の 他	103,933 人	17.8%	103,097 人	18.2%	109,621 人	19.3%
合 計	583,054 人	—	565,405 人	—	568,258 人	—

【製剤別供給数推移】



(単位：200mL 換算)

	令和5年度		令和4年度		令和3年度	
	供給本数	比率	供給本数	比率	供給本数	比率
血小板製剤	1,269,540 本	54.9%	1,224,211 本	54.8%	1,220,839 本	54.8%
血漿製剤	287,921 本	12.4%	276,320 本	12.4%	274,273 本	12.3%
赤血球製剤	755,555 本	32.7%	732,642 本	32.8%	731,051 本	32.8%
全血製剤	0 本	0.0%	0 本	0.0%	0 本	0.0%
合計	2,313,016 本	—	2,233,173 本	—	2,226,163 本	—

※「換算本数」は、各製剤の単位数を本数に換算した本数

※血漿製剤の単位換算は、FFP-LR120を1単位、FFP-LR240を2単位、FFP-LR480を4単位としていること

● ラブラッド（献血 Web 会員サービス）

安全な血液を安定的に確保することを目的に、東京都内のラブラッド会員に対しメールなどによる献血協力依頼を行いました。

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
登録者数	545,533 人	505,126 人	474,871 人

● 骨髓ドナー登録への協力

日本赤十字社は「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」に定められた支援機関として、(公財) 日本骨髓バンクの行う骨髓ドナー登録の推進に協力しています。

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
登録者数(都内)	70,854 人	69,975 人	68,558 人
登録者数(全国)	554,123 人	544,305 人	537,820 人

※日本骨髓バンクホームページ／骨髓バンクデータ集より

社会福祉事業

● 社会福祉事業体制の概況

次世代を担う子どもたちが健やかに育つよう、保育所1か所と児童養護施設1か所を運営しています。

赤十字子供の家

赤十字子供の家は、家庭環境上、施設養育を必要とする2歳から18歳までの子どもたちに対し、保護養育・自立支援を行う児童養護施設です。

定員は40人で、本園に28人、分園（エトワールフィユ山崎、さくら）に各6人が暮らしています。

● 基本理念

「生きる力を育み、自立へと共に歩む」

- ・人間のいのちと健康・尊厳を守る
- ・子どもの利益を最優先した支援を行う
- ・子どもと家庭の関係を大切にする
- ・子どもの自己決定と主体性を大切にする
- ・子どもの発達支援・自立支援を行う
- ・信頼できる職員であり、安心できる生活を提供する

● 令和5年度の取組み

◆概況

年間を通じて定員が埋まらない状態が続いていましたが、就学時における施設変更の条件をなくしたことにより、学童化がより一層進みました。学齢児は高校生と中学生1人ずつと小学生11人が在籍しました。

◆グループホームの整備

家庭的な養育環境の必要性が叫ばれるなか、準備を進めていた新たなグループホーム（ほし）の小規模グループケア地域型ホームとしての運営を開始することができました。これにより、すべての居室が小規模グループケア事業として運営できることとなりました。小規模化により、子どもたちへのより丁寧な支援が期待されます。

◆学童化により生じた課題への対応

年齢が上がることによって、対応すべきことに変化が出てきました。

暴言や暴力行為、性的な逸脱行動など、ケアニーズの高い子どもへの対応が増えており、関係機関などと連携しながら対応を検討しています。これらの課題については、「生と性の生活委員会」や「ワーキンググループ」などからの報告をもとに、引き続き取り組みを進めています。

● 在園児等の状況

[月別児童入退所状況（定員 40 人）]

令和 5 年度の延べ児童数は 425 人、入所率は 89% でした。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一日在籍児	31人	31人	35人	34人	34人	35人	36人	37人	37人	38人	38人	39人	425人
退 所	0人	2人	2人	0人	5人	9人							
入 所	0人	5人	1人	0人	1人	2人	1人	0人	1人	0人	1人	0人	12人
一 時 保 護	0人												
措 置 停 止	0人	2人	0人	0人	0人	1人	9人						

[入所理由別児童数]

入所理由	被虐待児	父母家出	父母傷病	離婚	父母死亡	父母就労	父母留置	家庭環境	その他	合計
人 数	17 人	0 人	3 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	19 人	39 人

[退所理由別児童数]

退所理由	引取り	措置変更	養育家庭	里親委託	その他	合計
人 数	7 人	1 人	0 人	0 人	1 人	9 人

[在籍児童の状況]

状況	被虐待児	知的障害	身体障害	非行等	病的症状	発達障害	教育相談機関利用	無国籍 外国籍	心理治療	合計
人 数	27 人	2 人	0 人	4 人	13 人	7 人	6 人	2 人	19 人	80 人

※重複している理由があるため定員を超えてます

● 寄付金及び寄贈品

赤十字子供の家は様々な方からご寄付やご寄贈品をいただいています。

皆さまの善意は事業運営に活用させていただきました。

寄付金 63 件 4,489 千円

寄贈品 118 件 計 4,679 千円

○ 園行事

行事名	実施月日	対象児	他参加者及び支援者
海水浴	各居室による	全児童	
中高生キャンプ	中止	一	
幼児・1年生キャンプ	8月4日～5日	8人	
小学生（2年生以上） キャンプ	8月23日～24日	7人	
花火	10月10日	全児童	
あきまつり	10月22日	全児童退所児	保護者、退職者、近隣住民、ボランティア、実習生
ハロウィン	10月31日	全児童	
七五三	11月3日	3歳女児2人 5歳男児5人 7歳女児2人	保護者、ボランティア（着付け）
クリスマス	12月24日	全児童	
初詣正月外出	1月1日	在園児	
もちつき	1月13日	全児童	
節分	中止	一	
雪遊び（幼児）	2月12日～13日	13人	
雪遊び（4年生以上）	3月2日～3日	5人	
雪遊び（1～3年生）	3月22日～23日	6人	



キャンプで川遊びに来た子どもたち

● 武蔵野市子ども家庭支援センター（受託事業）

◆電話相談

家庭の子育て機能の低下や親の育児不安に対応するとともに、虐待の防止に向けた地域における子育て支援として、武蔵野市から電話相談事業を受託しています。児童虐待に関する通告や子育てに関する相談を受けています。

※相談受付時間（日曜・祝日及び年末年始を除く毎日）

平日：午後5時～午後10時、土曜日：午前8時半～午後10時

（平日の日中は武蔵野市で対応）

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
相談件数	89件	140件	107件

◆ショートステイ

家庭の子育て機能の低下するなか、地域における子育て支援として、武蔵野市から武蔵野市子育てショートステイ事業を受託しています。

※ショートステイ受入れ内容

- ・市内に住民票がある2歳から小学校6年生までが対象
- ・利用事由は、死亡、行方不明、病気、出産、介護、冠婚葬祭、出張、育児不安、育児疲れなど
- ・原則7泊以内で定員3人まで

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
受入数	82人	106人	67人

武蔵野赤十字保育園

武蔵野赤十字保育園は、武蔵野市認可保育園として0歳から就学前までの子どもたちを保育しています。武蔵野の緑あふれる住宅地に立地しており、武蔵野市の中でも広い園庭がある保育園です。

● 基本理念

- ・私たちは「人道・博愛」の赤十字精神のもとに、子どもの人権と、最善の利益を守り、心身ともに健やかで心豊かな成長を目指した保育をします。
- ・子どもが健康で、安全・安心感を持って活動でき、経験や体験を増やして行く保育を大切にします。
- ・養護と教育を一体的に展開することによって、子どもが主体的に活動しながら生きる力を育む保育を大切にします。
- ・子ども一人一人の成長、発達を捉え、気持ちに寄り添う保育を大切にします。
- ・子どもの成長、発達を保護者と共有し喜び合うことで、大人も信頼し合い、育ちあえる協力関係を深めていきます。
- ・地域の子育て支援に貢献します。

● 保育方針

- ・心と身体の自立を促す保育
- ・人を慈しむ心を育てる保育
- ・生命及び自然を尊重する精神を培う保育

● クラス編成

定員：11 クラス 178 人

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
定員数	12人	30人	30人	30人	38人	38人	178人
在員数	12人	29人	30人	25人	33人	38人	167人

● 令和5年度の取組み

◆ 5歳児による災害時非常炊出し実習

災害時における炊き出し訓練を武蔵野市赤十字奉仕団の協力を得て実施しました。

実習を通じて、災害時に自分のいのちを自分で守ることの大切さについて学びました。



初めての炊き出し体験

◆子どものいのちを守るための講習の実施

夏の水遊びが始まる前に、子どもの水辺での事故を防止するための幼児安全法と水上安全法をかけ合わせたコラボ講習に職員 38 人が参加し、活動時に注意すべきポイントや幼児の一次救命処置の方法などを学びました。

また、地域の方々を対象とした幼児安全法講習を開催したほか、講習普及の担い手となる指導員が職員の中から新たに 1 人誕生しました。



人形を使って一次救命処置の練習

◆子育て支援事業

入園している子どもの保育のほか、地域の子育て施設として様々な社会資源と連携し、地域で子育てをする親子を支援しています。

区分	実施回数／人数	内容
赤ちゃんの広場	7回 親子 44 人	0歳児を養育する家庭や妊婦の方を対象に、わらべ歌や手遊びの練習、親同士の交流を通じて、離乳食や保健に関する情報交換を行う
体験保育	6回 親子 12 人	1歳児クラス、2歳児クラスの同年齢の園児と一緒に園庭やお部屋で遊びながら保育所の生活や遊びを体験していただく
ごっこ遊び	1回 160 人	お店屋さんごっこなどを楽しむ

◆地域交流事業

地域との交流を通じて園児の社会性を養うとともに、地域の方々に保育事業や赤十字事業に触れてもらう機会を設けています。

区分	実施回数／人数	内容
職場体験	2回 6 人	市内の小中学生の職場体験者を受け入れ、保育業務と赤十字への理解を促す
ボランティア	1回 5 人	武蔵野市赤十字奉仕団により、ハイゼックスを使用した炊出しをご支援をいただく
保育ボランティア	14回 2 人	幼児への絵本の読み聞かせなどをしていただく

看護師養成

● 看護師養成の概況

学校法人日本赤十字学園は、日本赤十字看護大学を設置し、看護師になるために国が定めた科目のほかに、赤十字について理解する「赤十字概論」、災害医療について学ぶ「災害看護論」、救護訓練など、赤十字の特色ある教育を行っています。また、日本赤十字社が設置する幹部看護師研修センターは、将来の幹部看護師等として活躍する人材を育成するため、看護職を対象とした各種研修を行っています。

東京都支部は、臨床看護や訪問看護等の地域医療のほか、赤十字の人道の理念のもと、国内外の被災地や紛争地域で活躍できる赤十字看護師の養成を支援しています。

● 看護大学の支部奨学生への助成

都内 3 か所の赤十字医療施設に将来就職する看護師の確保のために、日本赤十字社看護大学の学生の一部を奨学生と位置付けて、1 人あたり年額 60 万円の授業料の助成を行っています。令和 5 年度は 24 人の学生が、助成金の交付を受けました。

	武蔵野赤十字病院	大森赤十字病院	東京かつしか赤十字 母子医療センター	合 計
委託・奨学生数	14 人	7 人	3 人	24 人

● 幹部看護師の養成

日本赤十字社幹部看護師研修センターでの各研修コースを受講する、都内の赤十字医療施設に在籍する人材の推薦を行っています。令和 5 年度は、5 人の看護師が研修を修了しました。

	武蔵野赤十字病院	大森赤十字病院	東京かつしか赤十字 母子医療センター	合 計
修了者数	3 人	0 人	2 人	5 人

救護や看護に関する専門的な知識・技術に特化した研修の他に、管内の支部・施設での一般的な業務遂行能力の向上を目的として、基礎的かつ普遍的な内容の能力開発研修も実施しています。

令和5年度は、新たな人事評価制度の導入に伴い、階層別に求められる能力及び研修体系の整理を行い、職員研修計画を策定しました。

● 東京都支部主催研修（第2ブロック合同開催を含む）

研修名	開催日	参加者数	目的
目標管理・タイムマネジメント研修	5月23日	20人	組織目標に沿った実践的な目標管理等を習得する
人事・労務管理研修	5月30日	34人	労働基準法などの基礎的な知識を習得する
会計・財務研修	7月3日	27人	経理会計業務に必要な基礎的な知識を習得する
OJT研修	10月16日	10人	人材育成に必要な意図的・計画的・継続的な指導法などを習得する
実務遂行力研修	6月21日	13人	考え方のクセを打破する思考力を強化する
対人対応力研修	11月1日	19人	チームワークを高める議論と対話の技術を身につける
概念構築力研修	8月10日	29人	問題発見・解決力を強化する
中堅職員研修	7月6日～7日	20人	仕事の管理改善に関しての知識の習得と、業務を円滑に遂行するための職場の人間関係について理解を深める
新任課長級職員研修	8月3日～4日 8月9日～10日	19人（東京） [第2ブロック：103人]	管理職としてのマネジメント、人材育成に必要な能力向上を図る
新任係長級職員研修	7月3日～4日 7月13日～14日 7月24日～25日	35人（東京） [第2ブロック：197人]	係長職として必要な業務推進能力と問題解決能力、部下への指導力を身につける
既任課長級研修	12月21日～22日	11人	管理者として問題発見及び解決能力並びに組織運営・人材育成に関する知識を養い、管理能力の向上を図る
既任係長級研修	12月1日	30人	中間管理者として部下の指導と仕事のすすめ方についての能力を養成する

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部WEB形式で開催しました。

● 本社主催研修など

新規採用職員研修や幹部職員養成研修といった階層別の研修をはじめ、国際救援・開発協力に参加するための専門研修など、様々な研修に参加することで、赤十字の使命である人道的任務を達成するために求められる幅広い知識やスキルを習得しています。



職場外研修で他施設で働く職員と意見交換を行う

● 評議員会の概要

評議員会は、支部長・副支部長や監査委員らの役員や代議員の選出にあたるほか、支部の重要な業務について審議する機関です。評議員会のほかにも評議員懇談会を設置し、事業の適正な運営を期しています。各評議員の任期は3年です。

[役員]

役職	氏名	職等	就任日
支部長	小池百合子	東京都知事	平成28年10月19日
副支部長	黒沼靖	東京都副知事	令和3年10月25日
副支部長	吉住健一	特別区長会会長、新宿区長	令和5年6月7日
	倉石誠司	東京商工会議所副会頭	令和5年3月7日
監査委員	栖雲勲子	赤十字奉仕団東京都支部委員会 名誉委員 社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会会長	平成27年5月22日
	瀬戸川睦人	「サービス付き高齢者向け住宅」支援事業 社主	令和3年3月1日
	今井家子	東京都看護赤十字奉仕団 委員長	令和6年2月7日
顧問	長谷川光延	(元)赤十字奉仕団東京都支部委員会副会長	令和3年10月1日
支部参与		雲田孝司 小寺康裕	町格
	後藤明	中川原米俊	

[地区選出評議員(定員99人)]

地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名
千代田区	樋口高顕	〃	松本紀良	〃	大芦重雄
〃	(欠員)	江東区	菅澤運一	世田谷区	保坂展人
中央区	安西暉之	〃	渡邊惠司	〃	杉田紀子
〃	渋井賢太郎	品川区	望月孝博	〃	黒田真喜子
港区	今野由理子	〃	閑召一	〃	栗田幸子
〃	野尻三重子	〃	金子正秀	〃	大場弘
新宿区	浅見幹夫	目黒区	青木英二	〃	西山夫美子
〃	桑原公平	〃	五十嵐正夫	渋谷区	窪田久子
文京区	鳥海益恵	大田区	鈴木昌雅	〃	富澤洋
〃	茅島栄子	〃	平林敏夫	中野区	加藤洋右
台東区	服部征夫	〃	鈴木英明	〃	松延元子
〃	政木喜三郎	〃	松原茂登樹	杉並区	岸本聰子
墨田区	野原健治	〃	中島寿美	〃	高武征

地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名
"	矢崎 芳子	江戸川区	加藤 モモ子	東村山市	水戸部 瑞江
豊島区	高際 みゆき	八王子市	八木下 輝一	国分寺市	井澤 邦夫
"	片桐 昌英	"	田倉 光代	国立市	永見 理夫
北区	小野田 さち子	立川市	村山 正道	福生市	加藤 育男
"	正木 好江	"	(欠員)	狛江市	松原 俊雄
"	鈴木 將雄	武蔵野市	小美濃 安弘	東大和市	樋口 健次
荒川区	西川 太一郎	"	宇田川 みち子	清瀬市	小寺 茂
"	木内 輝男	三鷹市	河村 孝	東久留米市	富田 竜馬
板橋区	坂本 健	"	中館 文子	武蔵村山市	山崎 泰大
"	平塚 幸雄	青梅市	大瀬待 利明	多摩市	阿部 裕行
"	山本 照子	府中市	高野 律雄	稲城市	高橋 勝浩
練馬区	前川 翼男	"	志水 清隆	羽村市	橋本 弘山
"	浅沼 敏幸	昭島市	濱田 信子	あきる野市	田中 トシ子
"	加藤 政春	調布市	長友 貴樹	西東京市	細田 修克
足立区	依田 保	"	田邊 美春	"	清水 文子
"	峯岸 重隆	町田市	石阪 丈一	西多摩	森泉 句子
"	加藤 和明	"	木目田 英男	大島	川島 つねみ
葛飾区	大谷 隆興	小金井市	白井 亨	三宅	田代 則史
"	(欠員)	小平市	小林 洋子	八丈	小野 博史
"	(欠員)	日野市	大坪 冬彦	小笠原	島田 律子

[支部長選出評議員（定員 15 人）]

関係機関	氏名	関係機関	氏名
東京都福祉保健局	西山 智之	赤十字奉仕団	高橋 弘光
特別区長会	武井 雅昭	青少年赤十字	小寺 康裕
東京都市長会	橋本 弘山	東京都日赤紹綏有功会	横山 浩之
東京都町村会	杉浦 裕之	東京都総務局危機管理監	原田 智総
東京商工会議所	小林 治彦	東京都社会福祉協議会	鳥田 浩平
日本放送協会	堀江 豊之	東京都共同募金会	枝見 太朗
日本民間放送連盟	中村 泰輔	東京青年会議所	高木 隆太
本社理事	高野 律雄		

[評議員懇談会委員]

氏名	日本赤十字社役職	公職等
栖雲 劍子	監査員、赤十字奉仕団東京都支部委員会 名誉委員、社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会 会長	
長谷川 光延	顧問、(元) 赤十字奉仕団東京都支部委員会副会長	(元) 目黒区議会議長
瀬戸川 瞳人	監査員、代議員、東京都日赤紹継有功会会長	
高野 律雄	理事、代議員、地区長、支部長選出・地区長選出評議員	府中市長
服部 征夫	代議員、地区長、地区選出評議員、台東区赤十字奉仕団委員長	台東区長
小川 忠彦	代議員、全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会顧問 東京都青少年赤十字賛助奉仕団顧問、東京都日赤紹継有功会副会長	
横山 浩之	代議員、東京都日赤紹継有功会副会長	
萩原 重睦	代議員、東京都日赤紹継有功会副会長	
小嶋 淑子	代議員、東京都日赤紹継有功会副会長	
嶋田 慶三	代議員、東京都日赤紹継有功会相談役	
八木 幸子	代議員、八王子市赤十字奉仕団顧問	
阿美 澄枝	代議員、(元) 赤十字奉仕団東京都支部委員会副会長 小金井市赤十字奉仕団委員長	
杉浦 裕之	代議員、支部長選出評議員、分区長	東京都町村会会长、瑞穂町長
高橋 弘光	代議員、赤十字奉仕団東京都支部委員会会长 中野区赤十字奉仕団委員長	
竹之内 勉	代議員、新宿大通商店街振興組合理事長	

● 事業報告

[評議員会の開催]

	開催日	議事
第1回	6月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員、役員及び代議員の異動報告について ・職員の人事異動報告について ・代議員の選出について ・令和4年度事業報告（案）について ・令和4年度一般会計、医療施設特別会計及び社会福祉施設特別会計決算（案）について
第2回	2月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員、役員及び代議員の異動報告について ・令和5年度事業報告（中間報告）について ・監査委員の選出について ・令和6年度事業計画（案）について ・令和6年度一般会計、医療施設特別会計及び社会福祉施設特別会計予算（案）について ・令和6年能登半島地震における災害救護活動報告について

[評議員懇談会の開催]

開催日	議事
6月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の人事異動報告について ・評議員、役員及び代議員の異動報告について ・令和5年度日本赤十字社代議員会における所属委員会及び役員選考委員の候補者選出について ・武蔵野赤十字病院新病棟建築について ・東京かつしか赤十字母子医療センターの移転報告について

参考資料

(1) 赤十字について

赤十字は、国籍、人種、宗教、敵味方の区別なく、災害の被災者や紛争犠牲者に対して人道的支援を行う世界最大の人道機関です。そのネットワークは、191の国と地域に広がっており、世界に存在するほとんどの国で赤十字が活動しています。

ア 3つの標章の意味

[保護標章]

紛争地帯で傷ついた人々と、その人々を救護する赤十字関係者や施設、軍の衛生部隊等を「保護」するためのマークです。赤十字マークを掲げている病院や救護員等を攻撃することは禁止されています。



赤十字
RED CROSS
赤新月
RED CRESCENT
レッドクリスタル
RED CRYSTAL
赤十字マークは、ジュネーブ条約や法律等により厳格に使用方法が定められています。

[表示標章]

赤十字機関に所属していることを示すための「表示」のマークとして使用されることもあります。

イ 赤十字の組織としくみ

[赤十字国際委員会 (ICRC)]

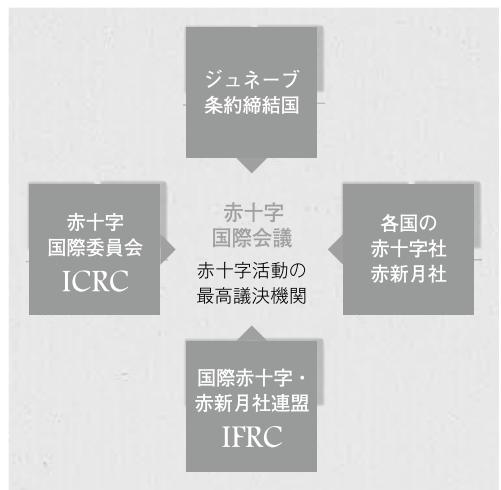
武力紛争およびその他暴力の伴う事態によって犠牲を強いられる人々の生命と尊厳を保護し、必要な援助を提供します。

[国際赤十字・赤新月社連盟 (IFRC)]

191の赤十字社、赤新月社の連合体。各国での活動を支援、推進し、災害時に国際的な活動の調整を行います。

[各国の赤十字社、赤新月社]

紛争や災害時の傷病者の救護活動、平時における医療・保健、血液事業、青少年の育成等の人道的な活動を行います。



ウ 国際赤十字・赤新月社運動の基本原則

1965年（昭和40年）にウィーンで開催された第20回赤十字国際会議で、赤十字の活動の基礎となる「赤十字基本原則」が決議され、宣言されました。

[人道（Humanity）]

国際赤十字・赤新月運動は、戦場において差別なく負傷者に救護を与えるという願いから生まれ、あらゆる状況下において人間の苦痛を予防し軽減することに、国際的及び国内的に努力します。その目的は生命と健康を守り、人間の尊重を確保することにあります。赤十字・赤新月はすべての国民間の相互理解、友情、協力及び堅固な平和を助長します。

[公平（Impartiality）]

赤十字・赤新月は国籍、人種、宗教、社会的地位または政治上の意見によるいかなる差別もしません。赤十字・赤新月は、ただ苦痛の度合いにしたがって個人を救うことに努め、その場合、最も急を要する困苦をまっさきに取り扱います。

[中立（Neutrality）]

すべての人からいつも信頼を受けるために、赤十字・赤新月は、戦闘行為の時いずれの側にも加わることを控え、いかなる場合にも、政治的、人種的、宗教的または思想的性格の紛争には参加しません。

[独立（Independence）]

赤十字・赤新月は独立しています。各国赤十字社・赤新月社は、その国の政府の人道的事業の補助者であり、その国の法律に従いますが、常に赤十字・赤新月の基本原則にしたがって行動できるよう、その自主性を保たなければなりません。

[奉仕（Voluntary Service）]

赤十字・赤新月は、利益を求める奉仕的救護組織です。

[単一（Unity）]

いかなる国にもただ一つの赤十字社・赤新月社しかありません。赤十字社・赤新月社は、すべての人に門戸を開き、その国の全領土にわたって人道的事業を行わなければなりません。

[世界性（Universality）]

赤十字・赤新月は世界的機構であり、その中においてすべての赤十字社・赤新月社は同等の権利を持ち、相互援助の義務を持ちます。

(2) 世界の赤十字社・赤新月社一覧

承認順	国名	承認年	承認順	国名	承認年	承認順	国名	承認年	承認順	国名	承認年
1	ベルギー	1864	48	アイスランド	1925	95	セネガル	1963	142	ジブチ*	1986
2	イタリア	1864	49	エルサルバドル	1925	96	タンザニア	1963	143	グレナダ	1987
3	スウェーデン	1865	50	カナダ	1927	97	トリニダードトバゴ	1963	144	チャド	1988
4	ノルウェー	1865	51	ドミニカ共和国	1927	98	ブルンジ	1963	145	モザンビーク	1988
5	スイス	1866	52	オーストラリア	1927	99	ベナン	1963	146	ドミニカ国	1989
6	オーストリア	1867	53	インド	1929	100	マダガスカル	1963	147	セントビンセント及び グレナディーン諸島	1989
7	トルコ*	1868	54	ニュージーランド	1932	101	ネパール	1964			
8	オランダ	1868	55	イラク*	1934	102	ジャマイカ	1964	148	ソロモン諸島	1991
9	英国	1870	56	ハイチ	1935	103	ウガンダ	1965	149	セイシェル	1992
10	デンマーク	1876	57	エチオピア	1935	104	ニジェール	1965	150	セントクリストファー・ネイビス	1992
11	ルーマニア	1876	58	ホンジュラス	1938	105	ケニア	1966	151	アンティグア・バーブーダ	1992
12	ギリシャ	1877	59	ミャンマー	1939	106	サンビア	1966	152	ナミビア	1993
13	ペルー	1880	60	アイルランド	1939	107	マリ	1967	153	スロバキア	1993
14	アルゼンチン	1882	61	リヒテンシュタイン	1945	108	クウェート*	1968	154	チェコ	1993
15	ハンガリー	1882	62	シリア*	1946	109	ガイアナ	1968	155	スロベニア	1993
16	アメリカ	1882	63	レバノン	1947	110	ソマリア*	1969	156	クロアチア	1993
17	ブルガリア	1885	64	フィリピン	1947	111	ボツワナ	1970	157	ウクライナ	1993
18	ポルトガル	1887	65	モナコ	1948	112	マラウイ	1970	158	バヌアツ	1993
19	日本	1887	66	パキスタン*	1948	113	レソト	1971	159	マルタ	1993
20	スペイン	1893	67	ヨルダン*	1948	114	バーレーン*	1972	160	アンドラ	1994
21	ベネズエラ	1896	68	インドネシア	1950	115	モーリタニア*	1973	161	赤道ギニア	1994
22	ウルグアイ	1900	69	サンマリノ	1950	116	シンガポール	1973	162	トルクメニスタン*	1995
23	南アフリカ	1900	70	スリランカ	1952	117	バングラデシュ*	1973	163	ウズベキスタン*	1995
24	フランス	1907	71	ドイツ	1952	118	フィジー	1973	164	アルメニア	1995
25	チリ	1909	72	アフガニスタン*	1954	119	中央アフリカ	1973	165	アゼルバイジャン*	1995
26	キューバ	1909	73	大韓民国	1955	120	ガンビア	1974	166	ペラルーシ	1995
27	メキシコ	1912	74	朝鮮民主主義人民共和国	1956	121	コンゴ共和国	1976	167	マケドニア旧ユーゴスラビア	1995
28	中国	1912	75	ラオス	1957	122	パハマ	1976	168	ブルネイ*	1996
29	ブラジル	1912	76	チュニジア*	1957	123	パプアニューギニア	1977	169	キルギスタン*	1997
30	ルクセンブルク	1914	77	スーダン*	1957	124	モーリシャス	1977	170	キリバス	1997
31	ポーランド	1919	78	ベトナム	1957	125	スワジ蘭	1979	171	パラオ	1997
32	フィンランド	1920	79	モロッコ*	1958	126	トンガ	1981	172	タジキスタン*	1997
33	タイ	1920	80	リビア*	1958	127	カタール*	1981	173	グルジア	1997
34	ロシア	1921	81	ガーナ	1959	128	イエメン*	1982	174	ガボン	1999
35	コスタリカ	1922	82	リベリア	1959	129	ルワンダ	1982	175	ボスニア・ヘルツェゴビナ	2001
36	コロンビア	1922	83	モンゴル	1959	130	ジンバブエ	1983	176	モルドバ	2001
37	パラグアイ	1922	84	カンボジア	1960	131	ベリーズ	1984	177	クック諸島	2002
38	エストニア	1922	85	ナイジェリア	1961	132	サモア	1984	178	カザフスタン*	2003
39	ボリビア	1923	86	トーゴ	1961	133	バルバドス	1984	179	ミクロネシア	2003
40	ラトビア	1923	87	シエラレオネ	1962	134	カーボベルデ	1985	180	コモロ連合*	2005
41	エクアドル	1923	88	ブルキナファソ	1962	135	サントメ・プリンシペ	1985	181	東ティモール	2005
42	アルバニア	1923	89	コンゴ民主共和国	1963	136	ギニアビサウ	1986	182	バレスチナ*	2006
43	グアテマラ	1923	90	マレーシア*	1963	137	アラブ首長国連邦*	1986	183	イスラエル**	2006
44	リトアニア	1923	91	アルジェリア*	1963	138	セントルシア	1986	184	セルビア	2006
45	エジプト*	1924	92	カメルーン	1963	139	ギニア	1986	185	モンテネグロ	2006
46	バナマ	1924	93	コートジボワール	1963	140	アンゴラ	1986	186	モルディブ*	2011
47	イラン*	1924	94	サウジアラビア*	1963	141	スリナム	1986	187	キプロス	2012
								188		南スーダン	2013
								189		ツバル	2015
								190		マーシャル諸島	2017
								191		ブータン王国	2019

国名の後に標の無いものは赤十字社 *は赤新月社 **は赤盾社

(3) 都内赤十字施設一覧

	郵便番号	住所	電話番号	設置年月
本社	105-8521	港区芝大門1-1-3	03(3438)1311	明治10年5月
東京都支部	169-8540	新宿区大久保1-2-15	03(5273)6741	明治20年10月
医療施設	日本赤十字社医療センター*	渋谷区広尾4-1-22	03(3400)1311	明治19年11月
	武蔵野赤十字病院	武蔵野市境南町1-26-1	0422(32)3111	昭和24年11月
	大森赤十字病院	大田区中央4-30-1	03(3775)3111	昭和28年7月
	東京かつしか赤十字母子医療センター	葛飾区新宿3-7-1	03(5876)3511	昭和28年2月
血液センター	関東甲信越ブロック血液センター*	江東区辰巳2-1-67	03(5534)7666	平成24年4月
	東京都赤十字血液センター	新宿区若松町12-2	03(5272)3511	昭和39年8月
	立川事業所	立川市緑町3256	042(529)0401	昭和45年5月
	武蔵野出張所	武蔵野市境南町1-26-1	0422(32)1100	平成13年10月
	葛飾事業所	葛飾区亀有5-14-15	03(5682)2802	昭和42年6月
	大田出張所	大田区仲六郷3-30-1	03(3733)3315	昭和43年6月
	辰巳供給出張所	江東区辰巳2-1-67	03(5534)7662	平成27年12月
	新宿東口献血ルーム	新宿区新宿3-17-5T&TⅢビル5階	03(6380)0654	令和3年12月
	新宿西口献血ルーム	新宿区西新宿1丁目西口地下街1号	03(3348)1211	昭和60年4月
	日赤都庁献血ルーム	新宿区西新宿2-8-1都議会議事堂地下1階	03(3343)2231	平成3年4月
	有楽町献血ルーム	千代田区有楽町2-10-1東京交通会館6階	03(3213)8666	平成3年12月
	akiba:F 献血ルーム	千代田区外神田1-16-9朝風二号館ビル5階	03(3251)8201	平成21年10月
	献血ルーム 池袋い～すと	豊島区東池袋1-1-4 タカセ・セントラルビル8階	03(3988)9000	平成4年7月
	献血ルーム 池袋ぶらっと	豊島区東池袋1-12-8フジキビル3階	03(5950)3000	平成11年7月
	ハチ公前献血ルーム	渋谷区道玄坂2-3-2大外ビル6階	03(3476)2880	平成20年12月
	献血ルーム feel	墨田区押上1-1-2スカイツリータウン・ソラマチ10階	03(6456)1972	平成25年4月
	東京八重洲献血ルーム	中央区八重洲2-1-1YANMAR TOKYO3階	03(6665)6911	令和5年5月
	献血ルーム 吉祥寺タキオン	武蔵野市吉祥寺本町1-15-2タキオノビル8階	0422(21)9000	昭和62年11月
	立川献血ルーム	立川市曙町2-7-17丸井・井上共同ビル地下1階	042(527)1140	昭和57年9月
	まちだ献血ルーム comfy	町田市原町田6-3-3町映ビル7階	042(732)8494	平成6年9月
社会福祉施設	日本赤十字社総合福祉センター*	渋谷区広尾4-1-23	03(6861)4800	平成24年4月
	日本赤十字社医療センター付属乳児院*	渋谷区広尾4-1-1	03(3400)1311	昭和23年11月
	赤十字子供の家	武蔵野市境南町1-26-27		昭和25年4月
	エトワール・フィユ山崎	武蔵野市閔前4-8-33	0422(31)8283	平成14年2月
	さくら	武蔵野市境南町5-2-26		平成28年2月
看護教育施設	武蔵野赤十字保育園	武蔵野市中町3-25-7	0422(52)3298	昭和26年9月
	日本赤十字社幹部看護師研修センター*	渋谷区広尾4-1-3	03(3499)1709	平成15年4月
	日本赤十字社助産師学校*	渋谷区広尾4-1-3	03(3400)1311	昭和26年4月
日本赤十字看護大学**	日本赤十字看護大学**	渋谷区広尾4-1-3	03(3409)0875	昭和61年4月

* 本社直轄施設

** 学校法人 日本赤十字学園施設